

はじめに

近年の情報化やグローバル化、またいじめをはじめとする様々な問題など、子どもと教育を取り巻く環境は、時代とともに大きく変化しています。

そのような中で、子どもたちの健全な成長のために、家庭や学校、地域がそれぞれ担うべき大切なことがいくつか考えられます。生活習慣などを身につけるためのしつけ、確かな学力や知識等の習得、子どもを見守り育てていく環境づくりなどです。また、それらが連携し、その“つながり”を活かしていくことが今後さらに必要となってきます。

本県の状況を見てみますと、家庭では、我が家の三原則「早寝、早起き、朝ごはん」の推進を行っており、実践している家庭の数は、全国平均を大きく超えています。また、三世同居率が高いこともあって、家族みんなで支え合う教育がなされています。学校では、学力や体力が常に全国トップクラスになっているなど、確かな力を身に付ける教育が進められています。地域では、そこに受け継がれているよき文化や環境が残っており、子どもたちの成長を支援し見守る活動が行われています。これらが互いに組み合わせ、本県の教育を支えていると考えられます。

このような状況の中で、それぞれのつながりを活かしていくために、PTAが担う役割も大きく、今後の活動の充実がより一層求められています。

本年度の幼小中および高等学校のPTA研修会では、学校と地域とが連携した活動、保護者と子どもが触れ合いともに成長していこうとする活動など、それぞれの特色を活かした活動内容が発表されました。どれも参加者の大きな関心を呼び、有意義な研修会となりました。

今回、これら研修会での発表を一冊の報告書にまとめました。皆様の今後のPTA活動の参考として御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、研修会の運営や当報告書の原稿執筆に御協力いただきました皆様方ならびに各PTA連合会関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、本県のPTA活動がますます発展され、地域社会を担う中核として御活躍されることを心から祈念申し上げます。

平成25年2月

福井県生涯学習センター

所長 今 富 廣 子

目 次

福井県幼・小・中 P T A活動研修会

	ページ
【 坂井地区 】	
「地域と共に子どもたちを見守り育てる P T A活動」	
あわら市細呂木小学校 P T A	1
「豊かな心と主体的に生きる力を求めて」	
坂井市立春江中学校 P T A	6
【 丹南地区 】	
「ふるさとを愛し、思いやりのある子どもの育成 ～三代『わいわいスマイルフェスタ』を通して～」	
越前市吉野小学校 教育振興会	1 1
「子どもの義務教育と大人の義務教育～大人が変われば子どもも変わる～」	
越前市武生第一中学校 教育振興会	1 7
【 奥越地区 】	
「花いっぱい えがおいっぱい あいさついっぱい －親子の絆を深め、明るく健やかな家庭を築くために－」	
大野市上庄小学校 P T A	2 1
「地域に根ざした青郊会活動」	
勝山市野向小学校青郊会	2 7
【 福井・永平寺地区 】	
「かかわりを育む紅梅会～心をつなぐ保護者会を目指して～」	
梅園幼稚園保護者会“紅梅会”	3 3
「ここに生きる（山の子プロジェクト）～学校との連携事業～」	
福井市下宇坂小学校 P T A	3 8
「生徒たちによる地域ボランティア～一部活！一部ボランティア！～」	
福井市社中学校 P T A	4 2
【 嶺南地区 】	
「鳥羽谷の子どもたち ～つながりを大切にした地域の風土が子どもたちを育てる～」	
若狭町立鳥羽小学校 P T A	4 7
「小浜中学校 教育講演会の取り組み 国際理解や異文化理解を体感する学校」	
小浜市立小浜中学校 P T A	5 3

福井県高等学校 P T A指導者研修会

【 嶺北地区 】	
「本校の P T A活動について～学校と家庭・地域社会の連携を目指して～」	
福井県立藤島高等学校 P T A	5 7
「武生東高校 P T Aの特色ある活動～地区別懇談会の実施をとおして～」	
福井県立武生東高等学校 P T A	6 2
【 嶺南地区 】	
「若狭東高校の P T A活動」	
福井県立若狭東高等学校 P T A	6 7

平成24年度 福井県幼・小・中PTA活動研修会 実施状況一覧

《 地区別研修会 》

地区・期日・会場	講演・研修内容	実践発表校
<p>【 坂井地区 】 6月23日(土) 坂井市 坂井地域交流センター 「いねす」</p>	<p>講演 『ひきこもり現象は、 今に何を警鐘しているか』 ～学齢期に温存する様々な要因を考える ～ 講師 敦賀短期大学 教授 龍谿 乗峰 氏</p>	<p>あわら市 細呂木小学校PTA 坂井市立 春江中学校PTA</p>
<p>【 丹南地区 】 6月30日(土) 越前町 生涯学習センター</p>	<p>講演 『食べる力は生きる力 “今、なぜ食育か？”』 講師 仁愛大学 教授 堀江 和代 氏</p>	<p>越前市 吉野小学校 教育振興会 越前市 武生第一中学校 教育振興会</p>
<p>【 奥越地区 】 7月1日(日) 大野市 多田記念大野有終会館 「結とびあ」</p>	<p>講演 『家族の羅針盤』 講師 和田教育研究所 所長 和田 周平 氏</p>	<p>大野市 上庄小学校PTA 勝山市 野向小学校青郊会</p>
<p>【 福井・永平寺地区 】 7月7日(土) 福井県生活学習館</p>	<p>講演 『あなたに伝えたいこと』 講師 福井まつのき児童館 前館長 津田 節江 氏</p>	<p>福井市 梅園幼稚園保護者会“紅梅会” 下宇坂学校PTA 社中学校PTA</p>
<p>【 嶺南地区 】 7月14日(土) 若狭町 中央公民館</p>	<p>講演 『子どものからだの健康科学 ～家庭と学校、できれば 地域も関わりを～』 講師 福井大学 教授 戎 利光 氏</p>	<p>若狭町立 鳥羽小学校PTA 小浜市立 小浜中学校PTA</p>

地域と共に子どもたちを見守り育てるPTA活動

あわら市細呂木小学校PTA

はじめに

細呂木小学校の校区は、あわら市の北部に位置し、一部、石川県境に接している。児童数98名、幼稚園児8名の合計106名、PTA会員数75名の小規模校である。歴史は古いが、現校舎は平成10年に新築移転された。高台に建つ校舎の時計塔が、地域の新しい顔になっている。



1 本校のPTA活動について

(1) 組織

本校のPTA組織は、会長をはじめとする8人の役員、14名の学級広報委員、9名の補導委員、同じく9名の保健体育委員によって構成されている。学級広報委員は各クラスから、補導委員・保健体育委員は各地区から選出される。

(2) 活動内容

役員は、年間のPTA活動の企画・準備を行い、各委員会の正副委員長との連絡・調整をする。

学級広報委員会は、年3回発行の学校広報誌「ほそろぎ」の編集と、6月に行われる「親子の集い」の企画運営を担当する。なお広報誌は、校区内に全戸配布する。「親子の集い」は、PTA行事の中でもビッグイベントで、



親子で楽しめるもの、そして思い出に残るもの、という視点で企画運営され、毎年大変多くの参加者がある。

保健体育委員会は、夏休み中の学校プール監視当番の割り当てや、救命講習会を開催している。また、運動会では、会場の準備・後始末を担当したり、PTA種目を企画運営したりしている。

補導委員会は、各地区の子ども会の世話をはじめ、児童の自転車安全点検や、夏休み中のラジオ体操指導、そして、年2回の資源回収を行っている。自然災害時の緊急下校や冬季積雪時の通学路確保などの際も活躍していただいている。また、補導委員長は、ほそろぎっ子見守り隊の隊長を兼任しており、平成17年から続くほそろぎっ子見守り隊をPTAの立場からサポートしている。なお、ほそろぎっ子見守り隊は、その地道な活動を認められ、

一昨年、県より表彰された。

2 子どもとの関わり

(1) 子どもと保護者

本校の保護者は、学校行事の際は積極的に学校へ足を運んでいる。学校も、できるだけ多くの保護者が来校できるように、年に6回の自由参観日を設定しており、どの参観日にも、大変多くの保護者が学校を訪れている。学校での子どもたちの様子をたくさん見たり、他の保護者の方と意見交換したりすることにより、子どもへの関心、そして学校への関心度がどんどん増していくと思われる。

(2) 子どもと地域

1年生は、祖父母学級を開いている。祖父母から、昔遊びを教えてもらったり、一緒に遊んだり、また、お話を聞いたりする、楽しい時間となっている。

2年生の地区探検では、地域の方に案内のボランティアをお願いしたり、道路歩行の際の安全指導をしてもらったりしている。

3年生は、金津の特産である越前柿栽培を手伝わせていただいている。地域の農家の方から指導を受けながら、摘果作業から収穫作業、さらには、干し柿づくり・あわせ柿作りも体験している。

4年生も、昨年度地域の方に畑の作り方を習い、トウモロコシの栽培に挑戦した。

5年生は、地元の農家の人やJAの方の協力を得ながら、田植えから稲刈りまでの作業を体験させてもらっている。

6年生は、縦割り班のリーダーとして、じゃがいも作り、さつまいも作りを行った。なお、その畑はいつも、地域の方に準備していただいている。

(3) 子どもと保護者と地域

毎年11月に、秋まつりが行われる。この日は、自由参観日に設定されていて、大変多くの参加がある。両親だけでなく、兄弟姉妹や祖父母の参観者もたいへん多い。さらに、畑や田んぼなどでお世話になっている方々や、地域のお年寄り・保育園児も招待している。学校内がほんとうのお祭りのように、にぎやかに活気づいている。

①【幼稚園】「げんきいっぱいえがおやさん」



自由参観日

指導主事学校訪問・道徳研究授業

なかよし球技大会・PTA親子の集い

校内マラソン大会

秋まつり

校内なわとび大会

6年生を送る会



訪れるお客さんは、簡単そうでちょっと難しい、体を使うゲームに挑戦していた。

②【1年生】「むかしあそびやさん」

祖父母学級で習った遊びをもとに自分たちで工夫して、楽しんでもらっていた。

③【2年生】「ゲームのひろば」

もぐらたたきや、つりぼりなど、楽しいゲームがたくさんあった。

④【3年生】「とろーりクリームパーシモン」

パーシモンというのは柿のことで、自分たちが収穫した柿をもとにデザートを作り、お客さんに食べてもらっていた。



⑤【4年生】「三つ星ポップコーン」

自分たちが収穫したコーンで、ポップコーンを作り、食べてもらっていた。

⑥【5年生】「もちりもち屋」

自分たちが植えて、秋に収穫した餅米を使って、もちを作った。地域のお年寄りには、杵と臼を使ったもち作りを紹介してもらい、子どもたちも体験させてもらった。



⑦【6年生】「さつま汁や」

自分たちが収穫したさつまいもをたっぷり入れたさつま汁を作り、来場者に振る舞った。お店は大繁盛で、行列が出来るほどであった。



⑧【PTA役員】「やきいも屋」

石焼き芋に挑戦した。とても、おいしくできた。

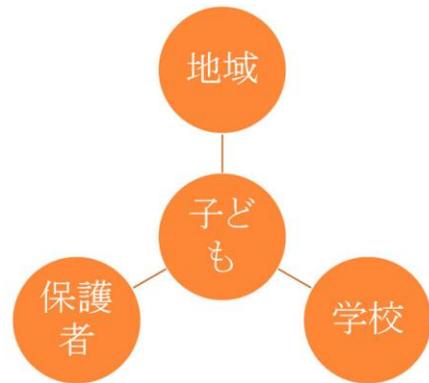
どのお店にも、子どもたちの元気な声が響き、保護者や地域の方の笑顔があふれ、細呂木小学校がとても幸せな空気に包まれていた。子どもたちのうれしそうな顔を見ていると、学校が、保護者が、そして地域が、みんなで子どもたちを見守ることの大切さを実感できた。秋まつりは、単なる学校行事ではなく、みんなを一つにつなげる、重要な役目を持っている。

おわりに

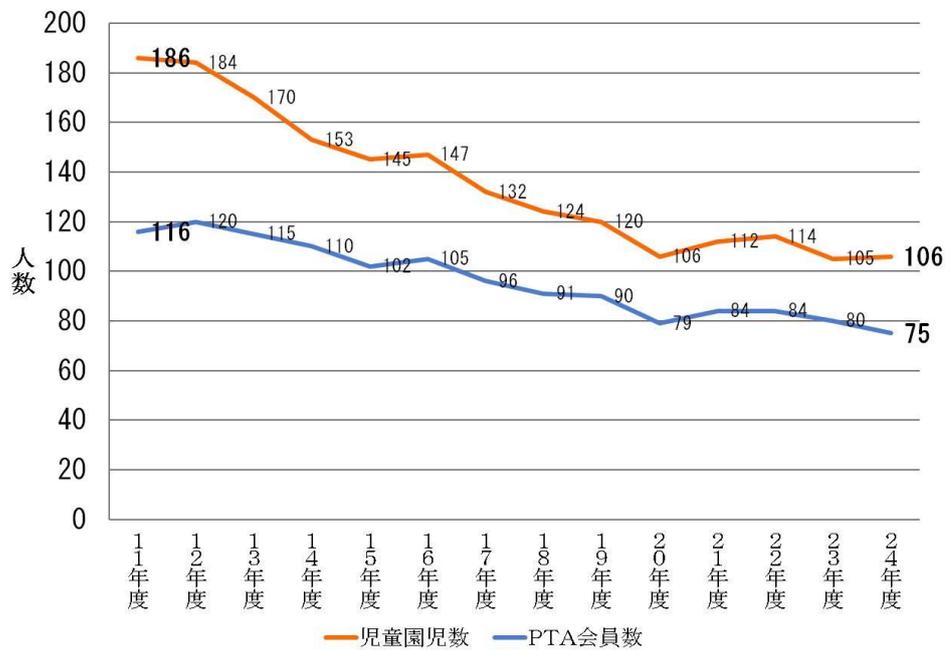
細呂木小学校のPTA活動は大変活発だ。また、地域の皆様には、子どもたちのために、しっかりとバックアップして頂いている。今後も、これからの子どもたちの幸せのために、学校と共に手を取り合って見守り育てる活動を進めていかなければならない。

しかし、問題がないわけではない。それは、児童数の減少である。児童数が減少するということは、PTA会員数も減少するということである。会員数が減ると、それだけ、会員一人一人にかかってくる負担も大きくなっていく。この先、減ることはあっても増えることは見込めない現状では、何らかの手立てをとらなければいけないと思われる。

今の細呂木小の保護者・地域・学校の強い結びつきを、
 今後も続けられるよう、さらにみんなが協力して、これ
 からの子どもたちを見守っていきたいと考える。



児童園児数とPTA会員数の変遷



【質疑応答と意見交換】 発表校 あわら市細呂木小学校PTA

新郷小学校PTA 橋本 氏

質問 児童数の減少とともに、PTA会員も減少するが、地域のサポートを得るためにしていることは何か？

細呂木小学校PTA会長 細川 氏

回答 地域のサポートにすごく助けられているので、これ以上求めてもとは思いますが、学校を中心にした結びつきが強い。

地域と保護者が案外うすい為、地域・学校協議会（地区の区長会長、民生委員、老人会長とPTA会長、副会長）に評価をいただいている。

坂井中学校 佐々木 氏

質問 保護者とPTAと学校と3つにつながって詳しい活動をしているが、マラソン大会、なかよし球技大会などの活動と保護者・PTAの関わり合いについて教えてほしい。

細呂木小学校PTA会長 細川 氏

回答 自由参観日の1つで平日に行っている。父母、祖父母の方が来られる。なかよし球技大会は土曜日に行うので出席率は99%、マラソン大会は65%で平日の割には出席率が高い。なかよし球技大会は、低学年はドッジボール、高学年はキックベースボールに分かれて行っている。今年は残念ながら、雨が降ってキックベースボールは延期なった。

坂井中学校 佐々木 氏

質問 球技大会は保護者も児童も一緒に参加する大会ですか？

細呂木小学校PTA会長 細川 氏

回答 本当は一緒に参加したいが子どものみです。

春江中学校 向川 氏

質問 自由参観日の参加率が土曜は99%と非常に高く、平日でも65~70%と高い参加率ですが、参加者の構成は母親が多いか？祖父母が多いか？

補導委員会の冬場の通学路の確保は非常にむずかしい為、どのように事前に決めてそのような体制で実施しているか？

細呂木小学校PTA会長 細川 氏

回答 自由参加日は母親が多い。あとは家にいる祖父母が多い。

通学路の確保は補導委員の仕事で、今年の県下一斉除雪デーについては、金曜日にメールがきて、翌日各集落ごとに作業しました。

地区の通学路で、徒歩通学地区は歩道の除雪、バス通学地区は各地区のバス停周辺を作業した。市から歩道の除雪が出る前に除雪がすんでいた。

豊かな心と主体的に生きる力を求めて

坂井市立春江中学校 P T A

はじめに

春江中学校は昭和22年5月1日に春江町立春江中学校として創設されました。その後、平成18年3月には平成の大合併にともない、坂井市立春江中学校となり県下2番目のマンモス校（29クラス）生徒数785名として現在に至っております。

また、本校は坂井市役所春江総合支所、エンゼルランド、ハートピア春江などの公共施設やショッピングプラザミなどの商業施設が近隣にあり、春江町の中心部に位置しております。

私たちPTAは子ども達が「豊かな心と主体的に生きる力」を持って成長することを願っています。保護者、先生方、地域の方々と一体となり、PTA活動をする中で大人たちの信頼関係を築き、そして、子ども達を温かく見守り、子ども達の背中を押せるよう活動を行っています。

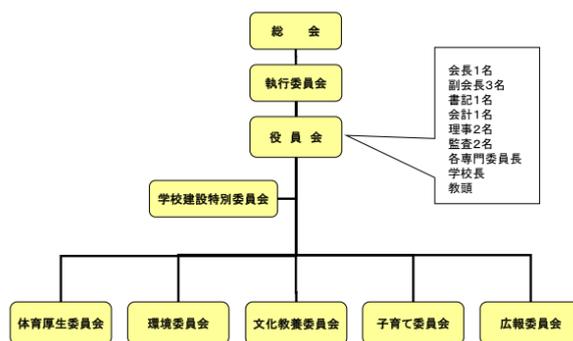


坂井市立春江中学校

1 組織の概要

春江中学校PTAは、議決機関である総会をはじめとし、執行委員会、役員会、専門委員会で組織されています。

通常、専門委員会は「体育厚生」「環境」「文化教養」「子育て」「広報」の5つの委員会で構成されていますが、現在は、校舎の耐震工事のために設置した学校建設特別委員会を含む、6つの委員会で活動しています。



組織の概要図

2 活動内容

(1) 体育厚生委員会

①部活動参観の実施（5月）

保護者に生徒の活動状況を見て頂き、顧問の先生との懇談会を開催します。

②体育祭への協力（9月）

応援合戦の点数集計や、学校周辺での見回りなどを行ないます。

(2) 文化教養委員会

講演会の実施（10月）

全校生徒を対象に、進路に関する講演会を実施します。本年度は、人とのつながり「絆」をテーマに講演会を実施しました。

(3) 広報委員会

「春中だより（年3回）」を発行します。学校行事や各委員会のアンケート結果等を取材・編集し、春中だよりを発行します。

(4) 環境委員会

①奉仕活動

環境委員をはじめ保護者と協力して、学校内及び周辺の清掃作業や教室の窓ふき、グラウンドの植栽の枝打ちを行ないます。

②あいさつ運動

下校時にJR春江駅、エンゼルランド付近など校区の5箇所で、愛護センター、青少年育成市民会議の方々と協力して声かけ活動を行います。

③資源回収

P T Aの大きな財源でもある資源回収を、毎年8月に福井空港の駐車場をお借りして実施します。

一昨年は、嶺北縦貫道と呼ばれる県道福井金津線が渋滞し、各方面にご迷惑をおかけしましたが、反省点を改善する為に回収業者と何度も打ち合わせし、ドライブスルー方式を試みました。

会場は図1のように回収車を配置しました。図1の上方が空港ターミナル、下方が嶺北縦貫道です。一昨年までは、空港ターミナル側に新聞、縦貫道側に雑誌・チラシ等の回収コンテナバスケットを置き、左方の進入路付近にダンボール回収のパッカー車を配置していました。しかし、今回はターミナル入口前の道路を使用して右方から進入するように変更しました。さらに、各回収物を8箇所で降ろせるように配置し、1ブロックですべて降ろせるようにしました。

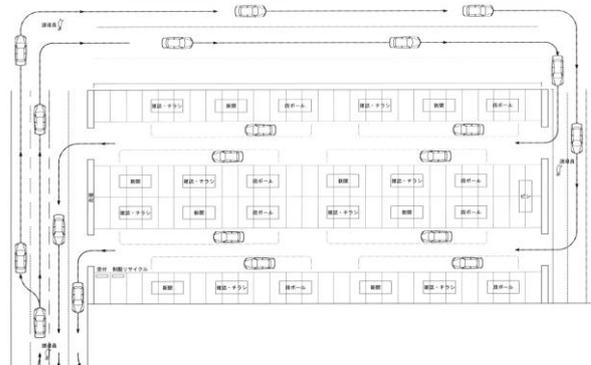


図1 会場レイアウト図



ドライブスルー方式での回収のようす

初めての取り組みということもあり、100%成功とはいきませんでした。が、県道および会場内の渋滞緩和に大きな効果がありました。

(5) 子育て委員会

①子育て便り「HOME」を年3回発行しています。

②中庭、校門周辺の花壇の掘り起こし作業、花の苗植え（6月）を行います。

委員会活動の一環として生徒が花の世話をしています。毎年、春と秋に開催される「フラワーブラボーコンクール」で、優良賞を受賞しました。

③AED講習会（3学期）

嶺北消防署の方の協力によりAED講習会を開いています。例年、保護者・生徒あわせて25名前後の方が参加されます。

AED講習会に参加された方の感想（一部抜粋）

- 一度、学校で教わったけれど、またあらためて、救命の大切さを学びました。
- 久しぶりの受講でしたが、なかなか身につけていないことを実感させられました。
- 数を重ねることではか身につかない技術だと思いました。

④制服リサイクル品の回収、および販売

子育て委員会では、制服や体操服、柔道着などをリサイクル品として回収・販売を行っています。平成20年、「エコ活動」を子育て委員会の活動に取り入れ、学校活動で使う制服などのリサイクルをするようになりました。

各家庭で使わなくなった制服や体操服・柔道着などを回収および販売することで、傷みがなくまだまだ着ることができる制服や体操服・柔道着などを有効活用するものです。平成22年から8月のPTA資源回収日に制服リサイクル用の制服を回収し、12月の保護者会開催日などに販売するようにしています。また、制服だけでなくリュックやズック袋も回収・販売しています。

校区内の全世帯にお知らせすることによって、たくさんの品物をリサイクルすることができるようになりました。また、販売日を2日間にふやすことで、多くのPTA会員の方



平成23年8月22日 日刊県民福井



制服販売のようす

に利用していただくことができました。

23年度の制服リサイクルの活動のようすは、日刊県民福井に掲載されたり福井放送のラジオ番組で取り上げていただいたりしました。

(6) 学校建設特別委員会

学校の耐震工事に向け、平成19年より特別委員会として設置されました。

保護者の意見を取り入れ、設計等の要望を行政と折衝します。

3 おわりに

子ども達が人の温かさを感じながら中学校生活を送ってくれることを願い、PTAを中心に朝のあいさつ運動を始めました。継続は難しい面もありますが、地域の方々や保護者の方々と協力しながらできる限り継続していきたいと考えています。

私たちPTAの1つ1つの活動は小さいかも知れません。しかし、子ども達を温かく見守り、声を掛け、地道な活動を続けることが、保護者、先生方、地域の方々と結ぶ力になると思います。また、みんなで協力しながら子ども達に関わっていくことが、「豊かな心と主体的に生きる力」を持った「賢く、正しく、逞しい」子どもを育てていくのだと思います。

【質疑応答と意見交換会】発表校 坂井市立春江中学校PTA

質問 ドライブスルー方式の資源回収について

- ①1台のトラックにいろんな物を積んできた場合の対応は？
- ②交通安全対策はどのようにしているのか？

回答①今までは場所を固定していたが、一昨年からは2台並んでおろせるようにしている。

②今年は誘導員を増員してトランシーバー等を持たせてスムーズに流れるようにする予定

質問 リサイクル品の名前はどのようにしているのか？

回答 あまり気にせずにいる。特別に対策はしていない。柔道着等はリサイクルに出す方も買う方も着る回数や価格のことを考えて気にしていない。

<意見交換>

「PTAの活動に対して保護者の関心をどのように高めるとよいのか」

- ・保護者の人も楽しく参加できること。
- ・どのようにしたら保護者の関心をひけるのか。
- ・地域の方がというところが本当に大事なところで、保護者のみではなく、地域の方がどなたでも行事に参加されて、地域を含めて学校に来て頂いて親しみやすくしていきたい。学校に興味を持っている人にPTAの役員等をやっていただけるといいと思っている。



平成23年12月21日 日刊県民福井

ふるさとを愛し、思いやりのある子どもの育成

～三世代交流「わいわいスマイルフェスタ」を通して～

越前市 吉野小学校PTA 教育振興会

はじめに

本校は、平成24年4月1日時点の児童人数は、475名。学校職員人数は、37名。

越前市の北側に位置し、校区東側には、JR・福武線・旧国道があり、その間を吉野瀬川が南北に流れています。西側には、田園風景が広がり、愛宕山が本校を見下ろしています。そして、丹南地区最大のスポーツ公園が、いま着々とつくられ、野球場も完成間近で、校庭から見える距離にあります。

歴史的には、江戸時代の陣屋跡や数々の古墳群など遺跡や史跡が残っています。地域の人々は、教育に関心が高く、子ども会活動も活発で、いろいろな子ども会行事を計画し多くの子どもたちが参加しています。また、学校行事にも協力的で、いろいろな行事をお願いしています。

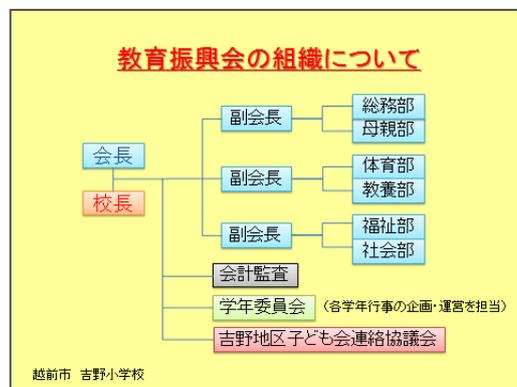


こうした地域環境に囲まれた本校は、「知・徳・体の調和がとれた心身ともに健康で人間性豊かな子どもの育成」を目指して教育活動を行っています。そのなかで、我々が行った「魅力ある学校づくり（居場所があって、楽しいと感じられる学校を目指して）」の取り組みの一部分を紹介したいと思います。

1 吉野小学校PTA教育振興会の組織と主な活動について

教育振興会（PTA）は、会長1名、副会長3名、会計監査、学年委員会、吉野地区子ども会連絡協議会会長と、総務部、教養部、福祉部、体育部、社会部、母親部の6つの部に分かれ、各部それぞれ年間を通して様々な活動を行っています。

総務部の活動は、会長のサポート、各会議等のスムーズな進行をするための前段取りです。また、夏には、納涼祭に屋台を出店。秋には、地区の文化祭で会場設営のお手伝い、その後、飲み物やお菓子を販売するなど、地域との関わり合いも一番多い部でもあります。それらの売り上げは、子どもたちの図書を購入するための費用などに使用されます。



教養部の活動は、年3回のあたご新聞発行です。毎回、今の学校の様子が手に取るようにわかる記事を掲載しております。内容の一つとして地域の皆様が支援、参加していただいている見守り隊の掲載や、子どもたちが執筆した記事や紙面など、その回ごとに楽しめる内容となっています。

福祉部の活動は、校内体育大会の時のバザーの開催です。地元の飲食店にお願いして、昼食を低価格で販売し、またジュースやアイス等も子どもたちに好評です。その売り上げも図書費などの物品購入費に回されます。9月には、校庭や校内の一斉奉仕作業も福祉部がメインとなって行っています。校庭、校舎学校全体の清掃及び作業のお手伝いを行っています。



体育部の活動は、5月の校内体育大会の補助があります。スムーズな準備物の出し入れ、子ども達のけがのない運営を先生と協力しながら行なっています。夏のプール時期前には、救急法講習会を開催し、緊急の時の対処方法を参加者全員で学び、見守りの質の向上に努めています。11月には、市P連ソフトバレーボール大会に向け参加者を集め、楽しく練習を重ね、当日の大会に参加しています。

社会部の活動は、年間を通して安全に登校するための指導を行っています。保護者参加型の講習では、1年生には、通学路を使用する際の危険箇所の指導、3年生には、自転車教室、また警察の方を招いての講習や指導も大変好評です。夏休みや春休みには、校外での安全指導の一貫として、公園や主要施設巡回を行っています。

母親部の活動は、新入生の親を対象に学校給食の試食会を毎年開催しています。この試食会に参加することで安心される新入生保護者がとても多くおられます。もう一つの活動といたしまして、制服のリサイクル運動を行っています。子どもの体の成長で、着ることが出来なくなった制服、体操服を集め、下の学年の子どもにお譲りすることで、服をあげた子、もらった子、双方の子ども達に物の大切さを教えられる活動です。

その他の行事では、学年委員会が各学年単位でいろいろな活動を行っています。内容は、親子ミニ運動会、夜の学校探検、ドッジボール大会、親子自転車教室、親子ボーリング大会など各学年代表の保護者が運営内容を決め、毎年違う内容で行っています。

2 最大のイベント 三世代交流「わいわいスマイルフェスタ」について

吉野小学校独自の秋の行事、本年度で13回目を迎える三世代交流「わいわいスマイルフェスタ」という行事があります。今からその行事内容について説明をします。

この三世代交流「わいわいスマイルフェスタ」を通して、児童や保護者、吉野地区内の老人会の方々がそれぞれのコーナーを設け、三世代間の交流を深め、児童の体験的な活動の充実を図ることが目的です。

昨年度は、10月15日土曜日に行いました。児童や保護者、地区の老人会の方々のご協力で、三世代それぞれの違ったコーナーを体験することが出来る内容となっています。

参加者は、吉野小学校児童とその保護者、吉野幼稚園園児、地域の老人会、地域の住民の方々です。



当日の3, 4, 6年生の子どもたちは、事前に各クラスで何をするか全員で話し合い、やりたい店や内容を決め、道具、備品などを作り当日を迎えます。「卓上のゲームコーナー」「ボーリング」「魚釣り」「ボールなどを使ったコーナー」など、幼児からお年寄りまでの誰もが楽しめる内容で、その年その年個性豊かなお店を出してくれます。

子どもたちは、いくつかの班に分かれ、作業の時間、フリーの時間帯に分かれ、決められた時間内で他のコーナーを見回ることとなっています。こういう楽しみ

の行事の中でも、時間配分の大切さ、団体行動での学びの大切さも子どもたちに教える事が出来る内容となっており、毎年5年生の子どもたちは、教育振興会（PTA）、老人会の各コーナーの補助の作業を行っています。

地区の老人会の方々には、保護者が行う「縄ない」「紙鉄砲」と「竹トンボ製作」などのコーナーのお手伝いをさせていただきました。保護者も普段は、経験したことがない方ばかりなので、なかなか上手くいきません。そこで、コツなどを教えていただきながら数十分、なんとか子どもに笑われない程度の物が出来るようになります。低学年の子どもたちも一緒に作ったりするのですが、保護者同様になかなか上手くいきません。苦労しながらようやく完成させた手作りのおもちゃを手に遊ぶ子どもたちの笑顔には素晴らしいものがあります。



老人会の女性の方たちには、「あや取り」と「おじゃみ」のやり方を教えて頂きました。このような昔ながらの伝承遊びなどをこういった場で異世代に伝えていく事で、目上の人々の尊さ、お年寄りの必要さなどを身にしみて再確認出来るのだなと思っています。

教育振興会（PTA）としては、「スライム作りコーナー」や「ゲームコーナー」「バルーンアート」「喫茶コーナー」など趣向をこらしたブースを展開しました。

「スライム作りコーナー」では、スライム用に調合した液の中に絵の具を混ぜ合わせ、ひたすら割り箸を使い練り合わすこと、数分・・・。完成した後の子ども達は、もう大騒ぎ。あの何とも言えないプニョプニョ感を体感する事で、私達も子どもの頃作った時のあの懐かしい思い出を、思い返す事の出来る内容となっております。

「ゲームコーナー」は、数メートル先からボールを投げ、限られた投球数で何枚パネルを倒すことが出来るかというゲームです。その時は、ボールの代わりにフリスビーの様な物を使いゲーム進行していました。子ども達も普段と違うやり方なので、子ども同士での点数の競い合いが白熱し、勝った負けたの大騒ぎです。



「バルーンアート」に至っては、事前に先生に指導してもらいながら練習をしてから当日を迎えます。子どもの要望通りとはいかないまでも、かなりの出来栄の物を短時間で作り上げていきます。その品をもらった子どもたちの顔は、欲しい物をもらえる嬉しさで満面の笑みを浮かべる子どもたちばかりです。

「喫茶コーナー」においては来場いただいた方々の安らぎの場となっており、説明させていただきました制服リサイクルもこの時にも行っています。

また、「受付」や「アンケートの協力依頼」「写真の撮影」など、人が目に届かない非常に大事な裏方作業全般をやっていただきました。

当日、会場には満面の子ども達の笑顔が溢れ、汗を流す老人会、保護者もその笑顔を見ても当然のことですが、笑顔（スマイル）で一杯です。

3 三世代交流「わいわいスマイルフェスタ」を終えて

吉野小学校の子どもたちは、事前に各クラスで何をするか全員で話し合い、やりたい店や内容を決め、道具、備品などを作り当日を迎えることができました。また、いくつかの班で、作業の時間、フリーの時間帯に分かれ、決められた時間内で他のコーナーへ参加し、自分たちも楽しめるようになっています。この行事を通して、時間配分の大切さ、団体行動での学びの大切さも子どもたちに教えることができたと考えています。

そして、子どもたちの心の中に、目標を達成するための主体性や協調性を自然に育むことができました。保護者も子どもたちも次の世代に伝えていくことで、目上の人々の尊さを体感でき、保護者と子どもたちとの間に生まれる新たな絆を感じ取ることもできました。また、昔ながらの伝承遊びなどをこういった場で異世代に伝えていくことで、目上の人々の尊さ、お年寄りの貴重な存在などを身にしみて再確認できました。

数十年後、子どもたちが親になって、その子どもがこの吉野小学校に入学し、私たちがその孫たちに教える時まで、この楽しいイベントを続けてほしいと思います。

この三世代交流「わいわいスマイルフェスタ」を終えて、
我々、越前市吉野小学校PTA教育振興会は、
また新たに、
笑顔いっぱい活動していきます。

子どもたちの「笑顔のために」



【質疑応答と意見交換】 発表校 越前市吉野小学校PTA 教育振興会

越前市武生西小学校PTA 会長 橋本匡弘 氏

質問 今回で13回目になるわいわいスマイルフェスタですが、毎回ある問題点と工夫点は？

回答 体育館だけでなく各校舎や玄関横のホールを使うなど、場所が広範囲に広く移動に時間がかかるという問題点があります。各コーナーの数を減らすのではなく、その工夫として、例えば竹トンボを削る作業を事前しておくなど、前準備をしっかりとします。また、各コーナーを短時間でインパクトのあるコーナーになるように工夫しています。

質問 このわいわいスマイルフェスタという事業の今後の展開・展望は？

回答 単なるこの事業を実施する事だけでなく、児童たちが、吉野地区という地域の中で、地域人として、学校や家庭の中だけでなく、地域にも育てられているのだという自覚を持ってもらえるようになってほしいと願っています。

子供の義務教育と大人の義務教育

～大人が変われば子どもも変わる～

越前市武生第一中学校 教育振興会

はじめに

武生第一中学校は、昭和22年5月に南条郡武生町立武生第一中学校として武生西小学校内に併設され、翌年昭和23年に現在の場所に新校舎が建てられました。

同年7月には、教育振興会が結成され、以来65年間『自立・敬愛・創意』を校訓として、明るく心豊かな生徒たちを育ててきました。

現在は、越前市内の小・中学校では最も多い、681名の生徒が、創意が丘の大ケヤキに見守られながらここで学んでいます。



1 教育振興会の主な活動（平成23年度）

- 【総務部】奉仕作業・学校祭（体育祭・文化祭）・各学年行事・学校行事への協力
- 【文化部】文化祭への協力（バザー・ファミリー川柳）
- 【教養部】広報誌「一中だより」の発行・アルミ缶回収・“web一中”ブログの維持管理
- 【保体部】体育祭への協力（バザー）・市P連球技大会・赤ちゃんだっこ
- 【福祉部】夏休みの巡回パトロール

2 教育振興会の活動目的

武生第一中学校の教育を振興し、生徒の幸福を関心する会員の教養を高めることを目的としています。

3 奉仕作業

【目的】

新学期に向けて、生徒の教育環境を向上させると共に、保護者・教職員・生徒が力をあわせて同じ作業を成し遂げることで更なる連帯感を育てることを目的としています。



り、

【実施日】

平成23年8月21日（日）8時30分～11時

※当日参加者 665名（保護者233名、教職員43名、生徒389名）

教育振興会と生徒による共同作業です。

8時30分から体育館での全体会の後、12班に分かれて校舎内外の作業場所に分散し、10時30分まで作業を行いました。

【作業内容】

- ① グラウンド整備
- ② 側溝の泥上げ
- ③ 校舎高窓の清掃
- ④ 体育館高窓の清掃
- ⑤ トイレ清掃
- ⑥ エアコンフィルタ・蛍光灯の清掃
- ⑦ 特別室床のワックスかけ
- ⑧ ペンキ塗り
- ⑨ 木製機の修繕
- ⑩ 草刈り
- ⑪ テニスコートの整備
- ⑫ ふれあいルームのワックスかけ



【成果】

参加者数は平成21年度の506名、22年度の508名に続き、昨年23年度は天候が悪い中665名もの多くの方に参加して頂きました。

この奉仕作業を通して、生徒たちは物を大切に作る心を養い、学校への愛着心を更に強く持つことができました。

新学期を気持ちよく迎えることが出来た事と思います。

4 『命のぬくもり（赤ちゃんだっこ）』体験学習

【目的】

学校では、総合的な学習時間などを中心に自分の命について考える授業を行っています。

この赤ちゃん抱っこは、地域の赤ちゃんを抱っこした世話をしたりするふれあいの中で命のぬくもりを味体験学習です。

学校・教育振興会が地域の皆さんのご協力を頂きながら行っています。



につ
り、
わう

【実施】

平成23年10月11日（火）から13日（木）9時30分～11時

※参加者： 赤ちゃん 延べ144名（月齢3ヶ月～11ヵ月）・スタッフ 延べ60名

【当日までの活動】

生徒・・・ポスター作成、助産士・先輩パパによる講演、妊婦・育児模擬体験
お母さん・赤ちゃんの名札作成、名前入りの似顔絵・看板作成

教職員・・・赤ちゃんの名簿作成・依頼書発送・スタッフ会議（5回）

教育振興会・・・赤ちゃん募集活動・スタッフ募集・おみやげ購入・スタッフ会議（5回）

健康増進課・・・乳幼児保護者協力依頼（乳幼児
セミナー・乳児訪問）



【当日の様子】

いろいろな体験やふれあいが満遍なく出来るように、生徒を6名前後のグループに分け、そのグループごとに月齢の違う赤ちゃんを3～5名振り分け、保護者1名が責任者としてつきました。体験学習の中では、赤ちゃんを抱っこしたりおむつを替えたり、まだ首がすわっていない赤ちゃんにミルクを飲ませてあげることが出来ました。また、お母さんから、へその緒やエコー写真などを見せて頂きました。会場には助産士さんにも来て頂いていたので、参加して下さった赤ちゃんの身長・体重を測定し母子手帳に記入することが出来ました。

【成果】

生徒たちは、この体験学習を通して命のぬくもりや尊さを実感し、家族や周りの人への感謝の気持ちを再認識することが出来ました。後日、総合学習の時間にその感謝の気持ちを込めた手紙を書き、家族の方に渡しました。

5 学校祭

【目的】

学校祭は、生徒たちによるスポーツの祭典「体育祭」と、芸術の祭典「文化祭」から成ります。

教育振興会では、売店や屋台村を開店し保護者の方々が一人でも多く学校に足を運んでもらえるように働きかけています。



【実施日】

◎体育祭：平成23年9月10日（土）

◎文化祭：平成23年9月16日（金）、17日（土）

【体育祭】

保体部による飲料品の販売店が運営されました。

応援で声の枯れた観客の皆さんに好評で、お茶や清涼飲料水が飛ぶように売れました。

今年度は、葦簀を立てて西日を避けたり、市役所の観光課より、菊人形で使用する木製ベンチを借り保護者の皆さんに快適に観戦していただけるよう配慮しました。



【文化祭】

文化祭1日目のお昼には、「愛情たっぷりさぬきうどん」が教育振興会有志の皆さんにより調理提供され、文化祭2日目には、名物の屋台村が開店し、お玉焼きやクレープ、白玉ぜんざい、清涼飲料水が販売されました。校舎内では、各家庭からご提供いただいた品物をバザー販売する『友愛セール』が開催されました。

【成果】

学校祭期間延べ3日間で、たいへん多くの保護者の方々にご参加いただきました。バサー等で得た収益金は、教育振興会の運営資金の一部に充てられました。

6 終わりに

『子は親を映す鏡』とことわざにある様に、親の考え方や言動は、そのまま鏡のように子どもに映し出されるものです。小・中学校の9年間は、親にとっても義務教育期間ではないでしょうか。私達は振興会活動を通して多くのことを学び、そして子どもと共に日々成長していきたいと思っています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 越前市武生第一中学校 教育振興会

質問 『命のぬくもり（赤ちゃんだっこ）』体験は三日間に渡り行われているようだが、具体的にはどの様に実施されたのか？
また、どういう点で苦労したか？

回答 体験学習をした1年生は全部で8クラスあります。
なるべくみんなが体験をできるように初日は1～3組、二日目は4～6組、三日目は7組と8組．．．というように分けて学習をおこないました。
大変だったことは、赤ちゃん集めが一番大変でした。体験学習が平日に行われるため、スタッフ集めにも苦労しました。

質問 この体験を通して生徒たちはどのように感じたのか？
どのような感想や意見があったのか？

回答 最初は赤ちゃんを抱いたりするのが怖かったり、ちゃんとできるかなと不安そうでしたがやっていくうちに「かわいい」という気持ちが強くなり、表情が穏やかになっていきました。自分の生れた時の事を親に聞いてみたりして、親の大変さを感じてくれたようです。友達との接し方も変わっていったそうです。

花いっぱい えがおいっぱい あいさついっぱい

— 親子の絆を深め、明るく健やかな家庭を築くために —

大野市上庄小学校PTA

はじめに

(1) 地域と学校の概要

上庄小学校は、大野市の上庄地区にあり、大野盆地の南東部に位置します。

東に日本百名山とうたわれる「荒島岳」を仰ぎ、真名川と清滝川の清流が作り出した扇状地にある農業の盛んな地域です。

上庄小学校は、100年以上の歴史を持つ、地区唯一の小学校で、現在191名の児童が通学しており、PTA会員世帯数は142軒で、その内3世代以上が同居する家庭は89%を占めています。ほとんどの家庭が共働きなので、祖父母や地域の人々にも見守られながら、毎日元気に学校生活を送っています。



(2) PTA組織の概要

上庄小学校PTAは、役員会・実行委員会のもと、「教養」「厚生」「広報」「ふれあい」の4つの活動委員会と、学年委員会により構成されています。

教養委員会では、子育て講演会等の企画運営とPTA図書環境整備、厚生委員会では、親子奉仕作業とPTAレクリエーションの企画運営、広報委員会では、年3回、機関紙「ほなみ」の発行を行っています。

ふれあい委員会は、児童がいる地区毎に1名の委員を選出し、日常的な子どもの見守り活動や、地元の夏祭りでの巡回補導、資源回収、花いっぱい運動の補助などを行っています。

1 活動スローガンの紹介

本校PTAでは、平成16年度に、毎月第2週の1週間を「あいさつ運動Week Day」として、児童へのあいさつや声掛けなどを行ってきました。しかし、この活動は継続されず、発展にはつながりませんでした。あいさつなど家庭教育に関する課題は、毎年のPTAの議論に上っていましたが、それらを意識した活動は行えずにいました。

また、この地区の小学校は本校のみで、中学校へ進学する際にも、顔ぶれが全く変わらないという地域性の影響で、外部からの刺激が無いせいか、本校の児童は引っ込み思案で積極性に欠け、あいさつもあまり出来ないという様子でありました。

そこで、あいさつなどに関する活動について、PTAとして何か出来ないかと議論を重ね、「花いっぱい えがおいっぱい あいさついっぱい」という活動スローガンを掲げて活動していくことになりました。このスローガンは、「花」、「えがお」、「あいさつ」をキーワードに家庭教育を考えていこうという思いから生まれたものです。

そして、そのスローガンを下記の方法で周知して、家庭、学校、地域で、活動を実践してい

く体制は整ったのです。

活動スローガンの周知方法

- ☆大きな看板にして、児童玄関に掲示
- ☆横長のポスターを作り、全校児童の家庭に配布
- ☆商店、事業所店舗の入口などに貼ってもらう
- ☆各集落の公民館等に貼ってもらう



2 花いっぱい運動の取り組み

【趣旨】

親子で花を育てることで、自然や命を慈しむ心を共に育み、ふれあいと絆を深める

【内容】

(1) 児童玄関前の花壇を花でいっぱいにする

チューリップか水仙の球根とビオラの苗を1つずつ親子で植えました。そして次の春には、400株ほどの花が校門周辺に咲き揃い、新入生を華やかに迎えることが出来ました。



(2) 「越前大野名水マラソン^{いろど}彩り運動」に参加

毎年5月の第4日曜日に越前大野名水マラソン大会が開催されています。この彩り運動



というのは、コースを花のプランターで飾り、ランナーを応援するというものです。プランターとマリーゴールドの苗を大会開催日の1ヶ月前に全校児童の家庭に配り、親子一緒に育て、大会前日にコースにプランターを置いて準備完了。大事に育てられた色とりどりのマリーゴールドがランナーの背中を後押し出来ました。

(3) 地区夏祭りに花を添える

毎年8月第1土曜日に開催される地区夏祭りに、学校で育てたプランターを、櫓の周囲や観客席のあたりに置いて、地区の祭りに花を添えることが出来ました。

(4) ひまわり里親プロジェクトへの参加

震災、放射能の悪影響に苦しんでいる被災地に、何かの形で協力したいという思いから、ひまわり里親プロジェクトに申し込みました。そして、各家庭でひまわりを育て、その種を被災地に送りました。

3 えがおいっぱい運動の取り組み

【趣旨】

家庭を、地域を、学校を笑顔でいっぱいに

【内容】

(1) 「笑顔咲く みんなの写真展」の実施

花いっぱい運動で育てたマリーゴールドを、各家庭で継続して育ててもらおう事と、花を育てることで笑顔になる事を実感するために企画。育てた花と家族が入った写真を撮影して、学校の玄関や廊下に掲示しました。児童や保護者のみならず、運動会や敬老会など地域の方が学校に来る機会を通じて、たくさんの方に見ていただきました。花を育てることを



を通じて、家庭で笑顔が咲いた瞬間を皆で共有することの素晴らしさを体験できました。

(2) PTAレクリエーションの実施



厚生委員会は、親子のふれあいの絶好の機会とするために、新たな試みとして大人対子ども対決の種目を取り入れました。非常に白熱し、親はわが子の成長に感動し、子ども達はお父さんお母さん達との対戦に精一杯力を出し尽くし、笑顔あふれる素敵な時間となりました。

(3) 広報誌「ほなみ」

広報委員会は「家族みんなが元気になる広報誌ほなみ」をテーマに広報誌を発刊しています。全児童の笑顔とメッセージを年に1回掲載し、親子で読み、家庭内でも笑顔があふれる内容で、とても身近に感じられる広報誌となっています。

(4) 笑顔の大切さを考える講演会の開催

教養委員会は、和田周平先生を講師に「子どもに幸せになってほしいから」というテーマで講演会を実施しました。そこで、「うたしあ」の実践を提唱されました。この「うたしあ」というのは、「うれしい」「たのしい」「しあわせ」「ありがとう」の言葉の最初の文字をとったものです。この「うたしあ」を紙に書いて目に見えるところに貼り出し、いつも意識する事によって、幸せで笑顔あふれる家庭を作っていこうと呼びかけられました。笑顔いっぱいの環境がどれだけ大事で素晴らしい事かを改めて実感することができました。

4 あいさついっぱい運動の取り組み

【趣旨】

家庭でも地域でも明るいあいさつがあふれ、明るくさわやかで心健やかな上庄校区にしていこう。

【背景】

児童は、学校ではしっかりあいさつができていますが、家庭内や地域に帰ってきたときには、しっかりできていないのではないかという声が聞かれました。

(1) 学年懇談会による意見交換

平成23年度の各学年懇談会に、「あいさつについて」というテーマを盛り込み、意見交換を行いました。

[現状分析]

- ・自分からあいさつせず、親が言わないとあいさつが返ってこない
- ・地域では、近所の人には恥ずかしくてなかなか言い出せない
- ・子供同士では、集団登校時でもあまりあいさつしていないのではないか
- ・遊びに来ている子がその家の人にあいさつできず、できたとしても声が小さい

[工夫している点、改善策など]

- ・大人からあいさつや一声掛けるようにしたらよいのではないか
- ・大人同士がすすんであいさつする姿を子に見せる
- ・〇〇くん、おはようと、名前をつけてあいさつする
- ・相手の顔を見てあいさつする

[新たな活動のコンセプト]

- ・皆が集まる場所で大人からあいさつする
- ・あいさつを意識する場所を作る
- ・家庭、学校だけでなく、地域の中にもあいさつの輪を広げる

(2) 「ラジオ体操あいさつ運動」の実施

上記の3点のコンセプトを基に、夏休みのラジオ体操を活用することにしました。地域でのあいさつが増えるきっかけは、地域の子どもと大人が顔見知りになること、また地域の方に子ども達の顔と名前を覚えてもらうことが大事だということで、地域の方にも参加を呼びかけました。

[内容]

夏休み前に専用のあいさつカードを全児童に配布し、ラジオ体操の会場で積極的にあいさつできた子には、地元の方からあいさつカードにシールを貼ってもらえるというもの。

ひと夏を通してあいさつに取り組んだ努力に対して、シールの多い、少ないに関わらず、全児童をあいさつ名人として表彰しました。

ラジオ体操あいさつカード
上庄小学校()年 第()号

7月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		

めざそう！あいさつ名人★

◎ あいさつ名人への道

- 自分から進んであいさつしよう！
- 笑顔で元気にあいさつしよう！！
- 同じ地域のおじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさん、大人の人たちにあいさつしよう！！
- お友達どうし、子どもどうしでも、お互いにあいさつをしよう！！！！
- いっぱいあいさつができたら、シールをもらってぼう。1日1枚ずつ、毎日いっぱいあいさつをしてシールをたくさん集めよう！！！！

[補足]

家庭内のあいさつ運動は、活動スローガンを家庭内に掲示することで、意識づけを図り、親子でのあいさつが習慣づけられるようにしました。

[結果]

初めは恥ずかしがっていた子どもたちも、日数を重ねるうちにあいさつができるようになりました。また、「あいさつ名人」という称号に喜びや励みを感じ、地域内であいさつをしようという気持ちも高まったと感じました。この活動は、地域で子ども達の元気なあいさつが響くようになり、地域の方々に好評でした。

5 アンケートからみる活動成果

平成24年2月に全児童と保護者にアンケートを実施しました。

[児童の結果]

- ①「すすんであいさつができたか。」という質問に対して、全体の80%近い児童が「はい」と答え、すすんであいさつができた実感できている。
- ②「プランターの花を育てることは楽しかったか。」には64%の児童が「はい」と答えた。親子で一緒に花を育てることの楽しさや生命の持つ力を知る、よいきっかけになったと思われる。
- ③「来年「笑顔咲くみんなの写真展」に写真を出してみたいか。」という質問に対しては「はい」と「いいえ」という回答がほぼ半々に分かれた。特に、低学年では「はい」と答える児童が多かった。

[保護者の結果]

- ①「『花いっぱい えがおいっぱい あいさついっぱい』が、PTA活動スローガンであると知っていたか。」これには98%とほぼ全員が「はい」と回答しており、ポスターの掲示等、常に目に見えるようにしたことの効果を確認できた。
- ②「親子で一緒に花を育てることに取り組みましたか。」こちらは66%が「できた」と回答している。
- ③「家庭で子どもからあいさつができるように、子どもに働きかけたか。」こちらは94%が「できた」と答えており、PTAの活動を通じて、各家庭で積極的に親から子へあいさつの働きかけをしていることが分かる。

おわりに

「花いっぱい えがおいっぱい あいさついっぱい」運動を、より発展的に継続していくために、今後の活動をどう進めていけばよいかということが課題であると考えています。

活動スローガンをポスターにし、各家庭、地域に掲示しましたが、このことで目に見える形でスローガンをアピールでき、校区を挙げて活動に取り組む姿勢を作り出せたと思います。また、各家庭、地域で、スローガンをもとに、PTAの思いを共有でき、活動の機運を高められました。この機運を大事にし、今後もスローガンをもとにした活動を継続していくことが大事であると考えています。

また、継続していくにあたり、より家庭で取り組みやすい事業に磨き上げていくことが重要な課題であるとも感じています。

今回、PTAが活動スローガンをもとに各事業を行ないましたが、地域の方々も協力的であることを実感しました。この地域性の良さを生かし、特に「あいさついっぱい運動」を地域全体としての取り組みに、さらに発展させるために今後も議論を重ねていきたいと考えています。今後は、これらの課題と向き合いながら、上庄小学校の子どもたちが、ますます「花いっぱい えがおいっぱい あいさついっぱい」になっていけるよう、PTAとして、知恵を出し合い、力を合わせて取り組んでいきます。

【質疑応答と意見交換】 発表校 大野市上庄小学校

富田小学校 松田 氏

質問 親子で花を育てて、イベントに参加するアイデアは参考になった。『笑顔咲く写真展』

に参加しますかとのアンケートの問いで、ほかのアンケートの回答に比べると、参加希望者が少ないと思いましたが、それについて何か考えているか？

上庄小学校PTA会長 廣田 氏

回答 低学年は参加したいとの回答が多かった。高学年になるほど写真を出したがない。自分の写真を出すのが恥ずかしいのだろうと思い、より参加しやすいようにハードルを下げて、花だけとか、ペットと花でもよいとか、家庭で取り組みやすくした。

有終東小学校 脇本 氏

意見 私は、上庄中学校の前に住んでいます。地域のおじさんです。上庄中学校の生徒は、私によくあいさつをします。なので、小学校の取り組みが中学校につながっていると思います。地域への広がりについては、まず、PTAの方、特にお父さんが、地域で頑張っていて欲しい、行事に参加して欲しいです。私は、上庄の壮年会の役員をしていますが、壮年会に入っている方が少ないので、是非入ってください。

有終東小学校 玄覚 氏

質問 上庄小の資料は、針のないホッチキスで止めてあり、環境に配慮していて、とても良かった。また、「ラジオ体操の中での挨拶運動」は面白い活動をされていると思った。どのくらい続けているのか？

上庄小学校PTA会長 廣田 氏

回答 去年（平成23年度）から始めた。区長をはじめ、地域の方へ子どもたちが挨拶をするようになってきた。最初はシールをもらえることが目的だった子どももいるがことから始まったが、顔見知りになった地域の方に、自然に挨拶ができるようになった。また、ラジオ体操の後にスピーチをすることによって、地域の方にしっかり顔と名前を覚えてもらえるという、思わぬ効果があった。

地域に根ざした青郊会活動

勝山市立野向小学校青郊会

はじめに

私たちの野向小学校は、勝山市のほぼ最北端にあって石川県小松市と境を接し、野向富士ともいわれる高尾山の麓に位置し山と緑に覆われた自然豊かなところにあります。本校の歴史は古く当初は、青郊小学校・幽溪小学校・芳溪小学校が明治5年に設立され、現在の野向小学校に統合したのは、明治30年です。現在児童数は、37名で、3・4年と5・6年が複式学級です。家庭実数は、28軒です。

青郊会では、こうした状況下で、スローガンとして「学校・家庭・地域で育てる野向っ子」を掲げ、学校と家庭、地域が連携して、野向の子ども達を地域みんなで育てていくことを目指しています。

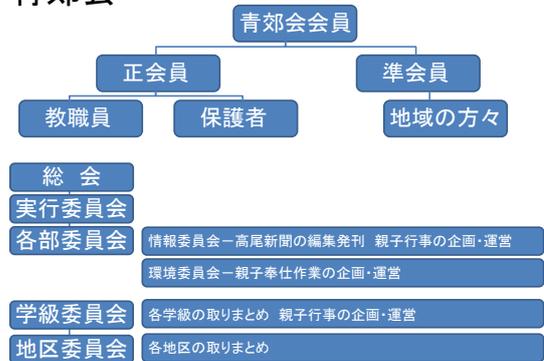


1 青郊会の組織とその役割について

私たちのPTAを青郊会といい保護者を正会員といいます。その他、地区の方全員が準会員となります。野向小学校青郊会の組織とその役割は、右の表のようになります。実行委員会は、会長1名、副会長2名と、情報委員会、環境委員会、学級委員会、地区委員会の委員長、副委員長と、学校の校長、教頭で構成されています。

また、各委員会の役割として、情報委員会では、高尾新聞の編集・発刊、親子行事の企画・運営があります。環境委員会では、親子半日奉仕作業の企画・運営を担当します。学級委員会では、学級毎の取りまとめや親子行事の企画・運営を担当します。地区委員会では、地区毎の取りまとめがあります。

青郊会



2 正会員による実践報告

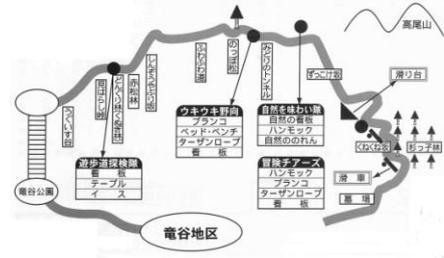
(1) 環境委員会の取り組み

環境委員会の主な活動は、校内の整備・清掃・雪囲い・遊歩道整備等の半日奉仕作業です。

『とっておきのお宝・・・“遊歩道”』

その作業には4年生以上の児童も参加します。その中で、本校の特色の一つになっているのが遊歩道です。

『とっておきのお宝・・・“遊歩道”』野向小学校の遊歩道は、高尾山のふもとあたりにあり、校舎北側から龍谷公園山頂の白山神社に至る全長約300m程度の林間施設です。今の児童達のおじいちゃん世代の方が整備



したもので、卒業していった子供達が命名した道が沢山あり、遊んで楽しみながら散策することができます。この遊歩道の維持管理は児童と保護者が協力し、春に整備、草刈り、遊具の設置、点検を行っています。そして、遊歩道には「ターザンロープ」や「ハンモック」などがあり総合や生活科の時間に利用され児童は自然観察や自然体験をしています。環境委員会の整備活動を通じて、親子のスキンシップや活動の大切さを経験させる役割も果たしているのでこれからも続けていきたいと思っています。



(2) 学級委員会の取り組み

学級委員会では、主に「親子ふれあい行事、学校懇談会、救命救急講習会」等を行っています。その中でも、今回は、今年の親子ふれあい行事として行いました、「どろリンピック in 野向」について、詳しく報告したいと思います。

開催概要としまして、

事業名 「どろリンピック in 野向」

実施日時 平成23年9月25日

実施場所・会場 野向小学校裏側の田んぼ

参加員数 野向小学児童、保護者、教員、地域の方々 計74名

学級委員会 『どろリンピック』



今回、この事業を企画するうえで、最も重点を置いた点について述べます。野向小学校は、全校児童37人という小さい学校です。ただ、児童数が少ないから出来ないのではなく、児童数が少ないからこそ出来ることもあるのではないかと視点を変えて、他の学校では人数が多すぎてなかなか体験のできないことを、子供たちに体験させてやりたいと考え、今回の事業を企画立案しました。

秋深まり紅葉の綺麗な稲刈りが終わった田んぼを地域の人に提供してもらい児童のおじいちゃんに代掻き、水張り等、春の田植え前のたんぼを再現してもらいました。その田んぼの中で、綱引きやバレーボールなどをして楽しむ企画でした。私たちが子供のころなら、誰もが、田んぼの中に裸足で入ってよくあのヌルヌルした感触を楽しんだものです。

しかし、今の子供たちは、田んぼに入る事など、まずありません。ゲーム、インターネット等、実際、肌で何も感じる事の出来ない、空想的な遊びをしているのが現実です。時代の流

れもあり、それはそれで大事なこともかもしれません。ただ、ひと時でもいいので、田んぼの中に裸足で入って、田んぼの中は暖かいということを実際、肌で感じてもらいたいと思ったわけです。

野向地区は勝山市の中でも小さな村です。今回の企画を地域住民に告知したわけではありませんが、人伝えに話が広がり、あれよあれよと人の輪ができ、始まる時には数十人の住民が周りを埋め尽くしました。この繋がりは、野向小学校の教職員が率先して進めている「あいさつ運動」の成果であると考えます。朝、人に会ったら、「おはようございます」帰るときは、「さようなら」。ごく当たり前のことですが、それが当たり前でできているからこそ、地域の住民とのコミュニケーションも取れ、結果的に多くの地域住民が集まってきたのではないかと考えます。

当然田んぼの中に裸足で入るわけですから、服が泥だらけになって汚れますし、多少のすり傷を負った子供もいましたが、それに対して、不快感を示すような親は、野向には一人もいませんでした。むしろ、「飛び込め」とか、「お父さん、お母さんも入る」など、みんなの飛び入り参加もあって、企画した側にしてみると、とてもうれしい誤算でした。2時間弱の短い時間ではありましたが、地域、学校（児童）、保護者と三者一体になれたひと時を過ごすことが出来ました。昨年の6年生も8年後には、成人となります。成人になった時に、次の時代を担う子供たちに、この体験を伝えていってくれば、次の時代に繋がっていつてくれるのかなと思います。

（3）情報委員会の取り組み

情報委員会では、年間通して、親子行事の企画・開催や高尾新聞の発行を行っています。その中で、親子行事について報告します。平成21年度、22年度は「さわらび会」の協力を得て、食育に取り組みました。「さわらび会」とは、勝山市食生活改善推進委員の呼称で、野向町民の会員の方に内容の相談から当日の講師も含めて全面的に支援頂きました。平成22年度は、「野向のえごま」を使ったお寿司やケーキ作りをしました。野向町は、勝山市の「わがまち元気発掘事業」

の一貫として、平成17年度から3年間、野向町まちづくり推進委員会の事業として「野向のえごまの栽培」を展開してきました。平成20年度には法人化され、栽培から搾油（さくゆ）まで地元での一貫生産を行っています。地域の人々とふれあい、地元の特産物を知り、地域に

「あいさつ運動」の成果

野向小学校の教職員が率先して進めている「あいさつ運動」



「おはようございます」や「さようなら」当たり前のことが、当たり前でできている



地域の住民とのコミュニケーションも取れ、結果的に多くの地域住民が集まってきた

みんな仲良くどるだらけ



関心を持つ良い機会となりました。平成23年度は、長尾山総合公園にある「かつやま恐竜の森」で化石発掘体験をしました。日本一の恐竜化石発掘数を誇る勝山市。今から1億2千万年前白亜紀前期の時代へタイムスリップした気持ちで、児童だけでなく、大人も必死で化石を発掘し、親子でふれあういい機会となりました。



3 準会員による実践報告

地域の方による、児童との関わりについて紹介します。

主な活動は、地元の老人会である「長命会」との合同草取り、地域ボランティアによる読み聞かせ、そして雅楽の3つです。

(1) 長命会との合同草取り

長命会との合同草取りは、児童と祖父母世代とのふれあいを目的として、毎年行っている取り組みです。70名近くの長命会の方が参加していただきます。一緒に校舎周辺の草取りをする中で、児童が自己紹介をしたり、長命会の方から草の取り方を教わったりするなど、交流が深まるようにいろいろ試みています。一緒に草取りを行った後、連合音楽会に向けて練習してきた合奏や合唱を聞いてもらっています。地域と学校を結ぶよき機会となっています。



(2) 地域の方による読み聞かせ

地域のボランティアによる読み聞かせを2週間に一度、月曜日の朝8時10分から15分間行っています。児童にとってこの時間は、物語の世界に浸って想像を膨らませる楽しいひとときとなっているほか、普段自分では読まないジャンルの本とふれあう、貴重な機会にもなっています。



(3) 地域の方による雅楽指導

野向町には古くから雅楽が伝わっています。勝山雅楽会に野向町の方が多数所属されていることから、雅楽が野向町に根付いていることが分かります。6年前よりこの勝山雅楽会から講師を招いて、児童も雅楽に取り組んでいます。

雅楽を通して児童は、地域の行事であるコスモス祭りや野向町文化祭に積極的に参加しています。

また、学校行事である野向っこ文化祭や長命会との草取りなど、折にふれ、地域の方を招待して演奏を披露しています。このように雅楽は、地域とのつながりの大きな手立てとなっているところです。



雅楽に触れることで、野向町の伝統文化や歴史に目を向け、自分達のふるさと野向町に深く愛着を持つことができることを願っています。

4 成果と課題

【成果】

- ・ 活動を通じて少人数ならではの連帯感と責任感を再認識し、遊歩道の親子半日奉仕作業などの整備活動を通して、親子のスキンシップや活動の大切さを経験させる役割も果たしています。
- ・ 雅楽に触れることで、野向町の伝統文化や歴史に目を向け、これからも学校・保護者・地域の方々と協力して、児童の成長を見守りたいと考えています。

【課題】

- ・ 児童数が年々減少していく中、家庭事情や多忙・活動への意識の違いから積極的に参加しない、出来ない家庭も増えつつあるのが現状です。その事を踏まえて、役員の負担を軽減しつつ野向の活動と伝統を継承していく事が大切であり、課題であると考えています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 勝山市立野向小学校青郊外会

質問 雅楽は全ての児童が取り組んでいるのか。また雅楽の練習はいつしているのか。

回答 1, 2年生は楽器の習得が難しいので、3年生から取り組んでいる。総合学習の時間を利用して、年間20回程度行っている。

質問 雅楽を続けるに当たって問題や苦労していることはないか。

回答 講師との日程調整や練習時間の確保に苦労している。雅楽の活動自体では、楽譜は音楽の教科書で見るとような五線譜のものではなく、カタカナ表記の独特のもので、まずこの楽譜を読むのが難しい。楽器は箏、龍笛、笙がありこの中でも特に龍笛が難しい。児童も音を出すのに苦労しているようだが、音が出た時の喜び、達成感は何だかと思うので、頑張って成長して欲しい。

質問 どりんピックを実施するにあたり、準備していく中で、苦労されたことは何ですか。

回答 学校の裏の秋の田んぼで、「しろかき」をし、十分にこねくりかえした。また、怪我をするといけないので、端から端まで役員が、一列に並んではだしの足に触れた小石を丁寧にひろった。

質問 地域の方々の支援により見守り、安心・安全活動となっている。野向小学校の準会員

の方との活動の 段取り（調整）、連絡については、どのように実施しているか？

回答 長命会・婦人会等地域では、団体の長がおられるので、学校を通じてその方と連絡している。また、PTAとしても可能なら行事に参加している。

<課題に対する意見交換>

意見 PTA活動は多数行事がある。我が学校も負担の軽減を図るため、レクリエーションの実施を複数の行事で同日に開催するようにした。負担軽減の工夫をはかるとよい。

発表校 我が校も行事で「AED講習」と「遊歩道整備」を同日に実施したことがある。今後も、負担軽減を検討していく。

意見 我が学校も46名の小規模校、田舎の環境である。活動について負担軽減、伝統を継承、地元離れに対しては、地域、区長会などに協力を呼びかけるのが、よいと考える。地域の各団体（歴史の会）で、地元を盛りあげていくとよい。

発表校 近年、30代40代で、地元野向に帰ってきている。今後も地元のよさを伝えて、児童に対しても帰ってきたいと思わせたい。自分たちがつらいと思わずに、楽しく行動したい。また、学校間の交流についても考えていきたい。

かかわりを育む紅梅会

～心をつなぐ保護者会を目指して～

認定こども園梅園幼稚園 保護者会“紅梅会”

はじめに

梅園幼稚園は、昭和31年に福井市毛矢町において浄土真宗本願寺派の“み教え”に基づいた幼児教育の場として設立されました。昭和55年に、より広い場所で大地に根ざした幼児教育を求めて毛矢町から現在の今市町に移転し、平成23年「認定こども園梅園幼稚園」となり現在に至ります。宗教的情操教育に基づき、みんながお互いに「ありがとう」「おかげさま」と手を合わせ、尊重しあって生きていける人になってほしいと願っています。



1 保護者会役員構成

平成24年度紅梅会（保護者会）会員数：199名

〃 総役員数：42名

三 役： 会長1名・副会長2名・会計1名・書記1名

監 事： 2名

ク ラ ス役員： 28名

やまびこ役員： 7名

2 紅梅会とは

梅園幼稚園保護者会のことで、在園児の保護者が協力し合い、子ども達が快適に園生活を送れるようにサポートすること、並びに保護者同士の親睦を図ることを目的とし、様々な活動を行っています。また三役OB会“白梅会”を立ち上げ、卒園後も子ども達を育み見守れる環境作りに努めています。

3 活動内容

*バザー

紅梅会主催の最大行事で、役員が中心となり保護者全員参加で開催します。保護者同士の親睦を深めることを目的とし、バザー収益は子ども達の保育環境をよりよくするために園へ還元します。また昨年度より収益の一部を東日本大震災の義捐金として寄付しています。毎年大盛況で在園のご家族をはじめ多くの方にご来場頂いています。新年度の役員が決まり次第準備を進めていきます。年少役員はゲーム、年中役員は日用品販売と体験コーナー、年長役員は食べ物のリーダーになって頂き、詳細を検討していきます。それ以外にも父親有志による焼き鳥、

お寿司や飲み物などの日配品、白梅会による喫茶コーナー、お絵かきルームなど、園舎全体を使って子どもも大人も楽しく一日が過ごせるよう考えています。そして、在園児が楽しみにしているものの一つにシールラリーがあります。先生方のご協力のもと、あいさつを主体とした内容で行っています。今まで大きな声であいさつできなかつたお子さんも、これを機にできるようになったとの声も聞かれました。また事前にシールラリーの台紙を配布し、裏面に前売り券を貼って、お買い物体験ができるよう工夫してあります。この体験を通じてコミュニケーションの大切さ、共にわかちあう喜びを感じとってくれたらと願っています。また会員同士の親睦を深めることとリサイクル意識の向上を目的に、不要の手芸材料を集めて“手作りの会”を開催し、日用品コーナーにて販売します。ハンドメイドがお得意な方、そうでない方、ご参加頂ける方はさまざまですが毎回楽しい会となっています。防犯対策としては、一日安全に過ごせるよう先生方に交代で警備のお手伝いもして頂いています。役員はどこにいるかわかるようお揃いのTシャツを着用し、在園児は体操服で参加しています。紅梅会主催の最大行事のバザー、保護者同士の親睦はもとより、親子の絆、幼稚園とのかかわりもさらに深くなっていくことを実感しています。



*やまびこクラブ

やまびこクラブでは、子ども達に交通安全や正しい交通ルールを知ってもらうために活動しています。毎年6月に行われる家族の日参観の際には、保護者の方にやまびこクラブの活動を知って頂くと共に、親子で交通安全を心掛けてほしいという思いから、子どもの写真入りストラップ、キーホルダー、カーアクセサリーなどを作り、お渡ししています。また園の交通安全教室のお手伝いの他、やまびこクラブ企画の交通安全教室を2回実施し、子ども達が交通ルールについて、正しく楽しくわかりやすく学べるよう、活動しています。学期末には保護者向けと園児向けのお便りを発行し、活動内容のお知らせと長期休暇中の交通安全を呼びかけます。やまびこクラブの活動をより身近に感じて頂くと同時に、親子で交通安全、交通ルールについて話し合うきっかけができれば・・・と考えています。



*ソフトバレーボール

毎年11月に開催される私立幼稚園ソフトバレーボール大会にも参加しています。保護者同士の親睦を深める目的で、去年は3チームが出場しました。役員ではない保護者の方にも参加を募り、練習を重ねるごとにチームワークも生まれ、和気あいあいと活動しています。また、保護者同士のコミュニケーションの場にもなっています。

*さくらんぼ会



保護者及び地域住民との交流を目的に各クラス役員が講座を企画、運営します。年3回実施し、講師代、材料費の半額は紅梅会にて負担します。昨年は“プリザーブドフラワー”・“ダイパーケーキ”・“スクラップブック”を実施し、いずれも大盛況のうちに終わりました。

*資源回収

子ども達へ資源ごみの有効活用の関心を高めてもらうために、ア

ルミ缶回収を年7回実施しています。回収日をお便りにて発信し、前日と当日は園のご協力のもと、バスに案内を貼らせて頂きます。回収方法は登園バスに乗せて頂くか、園まで持って来て頂き、9時30分から10時の間に役員が収集します。缶がきちんとつぶされているか又異物混入がないか確認後、リサイクル業者へ持ち込みます。わずかな収入ではありますが、貴重な財源です。子ども達のリサイクル意識向上の為に、今後も続けていきたいと思ひます。



*給食試食会

昨年度新園舎完成に伴い、委託給食から自園給食となりました。保護者の方に給食への理解と、食生活や健康への関心を高めてもらい親子のかかわりを深めてもらうことを目的に開催しています。年少保護者を対象に、4月の保護者会総会終了後お子さんのクラスにて行います。お子さんはお弁当を、保護者の方は給食を頂き、通常お子さんが食べているものと同じ量を試食します。またアレルギーをお持ちのお子さんの保護者は、アレルギー食を頂きます。年齢に応じた材料の切り方や量もわかり、食への関心が高まったという感想を多数頂いています。試食会の途中では全員に自己紹介をして頂き、親子ともに親睦を兼ねた楽しい会となっています。試食会終了後はアンケートを記入して頂き、集計後園へ提出して今後の参考にして頂いています。



*お別れ会

卒園式終了後、先生方・卒園児・卒園児の保護者でお別れ会を行います。卒園児の保護者が中心となり、企画や運営を全て担当します。当日は年少と年中のクラス役員、やまびこ役員の方にもお手伝い頂きながら、心に残る素敵な時間を過ごせるよう工夫しています。会の始めには“未来へのポスト”と題して、6年後の自分へ届く手紙を書き、保護者有志手作りのポストへ投函します。楽しい会食を交えて先生方や保護者の出し物、卒園児のラストステージなど、なごやかに会を進めていきます。そしてキャンドルサービスで会の締めくくりとなります。昨年度は牛乳パックで作ったキャンドルカバーでタワーを作り、幻想的な雰囲気の中、会を終了しました。



先生方への感謝の気持ち、幼稚園への様々な思い、子どもの成長と今後の希望、そして保護者

同士の絆がこのお別れ会には込められています。笑いあり、涙ありの園生活最後を飾る思い出深い一日となっています。

4 幼稚園行事へのサポート

*運動会

毎年秋に運動会を開催しています。体をしっかり動かして、協力しながら最後まで諦めないで頑張ることの楽しさを味わってほしいと願っています。紅梅会としてもそう願いながら、リハーサル日と当日に道具の出し入れ、召集、審判補助、ピストル打ちなど園と一体となりサポートしています。

*もちつき大会

毎年12月に浄土真宗の開祖である親鸞聖人のご法事として、報恩講もちつき大会を行い、子ども達は手のひらより小さなお餅を三個食べます。子ども達はお仏間でお参りとお話を聞き、ホールにてもちつき大会となります。年長さんは半被を着用し、小さい杵を持って自分達でお餅をつきます。ホールはお餅をつく心地よい杵の音と声援を送る子ども達の声であたたかい雰囲気になります。当日は紅梅会からのお手伝いだけではなく、もちつきに詳しいおじいちゃん、おばあちゃんにも参加して頂き全面的にサポートしています。

*生活発表会

毎年2月に生活発表会をハーモニーホールにて開催しています。発表会を通じて、お友達と力を合わせる大切さ、最後までやり遂げる素晴らしさ、大きなステージで発表できた達成感など、子ども達は沢山の学びを経験します。そんな子ども達を見守るべく紅梅会として、リハーサル日と当日は道具の運び出しから撤去まで裏方は保護者が行います。リハーサルで道具の出し入れ、ステージ設置場所の確認をして、当日の進行がスムーズに行われるよう把握します。また、二日間に渡り使用する道具や衣装作りのお手伝いにも参加することで、親子のかかわり、園とのかかわりも更なるものとなります。



おわりに

近年、急速な少子化の進行や家庭・地域を取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。梅園幼稚園では、多様化するニーズに応えるべく昨年認定こども園となりました。お仕事やご家庭の用事等今まで以上にさまざまではありますが、役員活動、幼稚園行事のサポートを通じて親と子の心をつなぐ架け橋になればと願っています。発表テーマ「かかわりを育む紅梅会」の通り、親子・幼稚園・地域などとさまざまなかかわりを育みながら今後も活動していきたいと思えます。

【質疑応答と意見交換】発表校 認定こども園 梅圃幼稚園 保護者会“紅梅会”

東藤島小学校 天谷 氏

質問 給食試食会において、子どもは手作り弁当を親は給食を食べるという形式は、いつから始めたのか？

回答 以前は委託給食だったため親も子も給食を食べていたが、昨年度新園舎完成に伴い自園給食へと移行したため、親子の交流も兼ねてこのような形式になった。

藤島幼稚園 梅田 氏

質問 スライドの画面で生活発表会の子どもが着る衣装をお母様方が作っていたが、保護者が使える部屋が幼稚園の中にあるのか？

回答 幼稚園に併設されている梅圃寺の一室を園から借りている。会議やサークル活動などもその部屋で行われている。

ここに生きる（山の子プロジェクト）

～学校との連携事業～

福井市下宇坂小学校PTA

はじめに

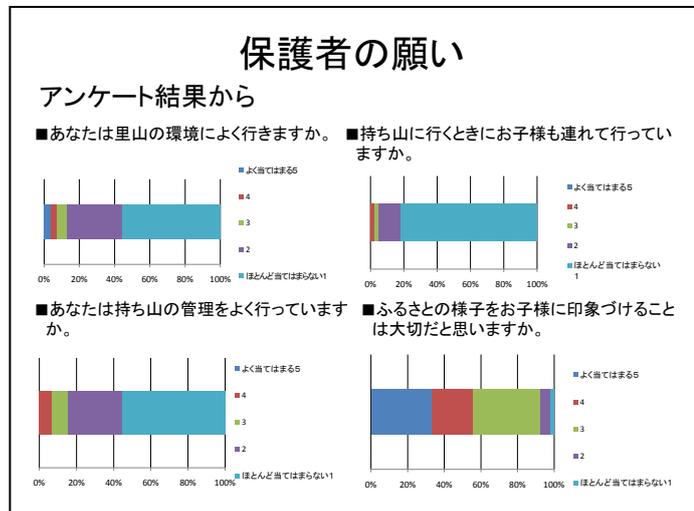
下宇坂小学校は、緑の山々、鮎の住む足羽川など豊かな自然に囲まれた美山地区にあります。昭和63年に新校舎が落成し、現在の国道158号線沿いの丘の上に移転しました。とんがり帽子の時計台がある学校です。平成8年には新幼稚園舎が落成し、小学校の東側に併設の幼稚園として移転しました。平成18年には、市町村合併により、福井市下宇坂小学校として、現在に至っています。学校の敷地が広く、畑や学校田、そして長いスキースロープもあり、冬季には、幼稚園から小学校6年生までがそりやスキーを楽しんでいます。学校から徒歩圏内に学校林もあります。児童数は年々減少し、今年度61名です。

美山地区においても、高齢化、少子化が進む中、さまざまな課題を抱えてふるさとづくりが行われています。しかし、子どもたちの様子を観察した場合、「子どもの地域離れ」が進んでいるのが現状です。子どもたちの放課後の遊びの様子や家庭での手伝い体験などを調べても、町の子どもたちとあまり変わらない様子がうかがえます。PTAのあちらこちらから、「ふるさとがあるのにふるさとを実感したことがない、そのようなつまらない育ちを私たちの子どもたちにして欲しくない」という声があがりました。そこで、学校や地域と連携しながら、子ども達に「美山っ子」を十分に感じさせるための活動に取り組むことにしました。

1 活動の背景・実態把握

子どもたちの家庭では、杉の山林を所有している家庭も多いのですが、子どもたちはその仕事内容や山を守っていくという林業後継者としての意識は薄いです。これらの「山の子」という感覚の乏しくなった子どもたちに、身近な自然と十分関わらせるためには、直接見たりふれたりする体験活動を取り入れなければならないと考えました。また下宇坂地区の歴史や伝統文化、生活の様子について学び、下宇坂らしさを発見することは自分の住む地域に愛着をもち、誇りに思うことになるとも考えました。国道158号線のバイパスが今春開通するなど幹線道路の整備や高速通信網の充実などが進んでいます。地域の特色が薄れてきていることも考えなければならないことだと思います。右は、保護者全員にアンケートを実施した結果です。

この結果から、持ち山があっても山の環境や管理に行っている保護者



が大変少ないことがわかります。

また、子どもと一緒に山に連れて行くこともほとんどないことがわかります。

子どもたちに「美山の子」としての気概を持たせるための活動をするには、学校や地域も巻き込んだ活動にすることが必要だと思いました。

そこで、学校に相談し、大まかにできあがったプロジェクト構想が「ここに生きる（山の子プロジェクト）」です。

2 活動時間の確保

問題となるのが、子どもたちの学習時間の確保です。学校側に意見をいただきながら、3月にPTA緊急役員会を開き、「山の子プロジェクト」の説明を行いました。役員一同が賛成してくれたこともあり、計画自体もスムーズに進展し、学校側の年度当初計画にも組み入れてもらえることができました。学校では、「総合的な学習の時間」などをやりくりしながら、時間の確保を行っていただきました。

3 指導者の選定

保護者の中にも教員の中にも「山のこと」を知る者がいません。これは重大な問題でした。活動を指導してくれる人がいなければ、本当の意味で子どもたちを感化することはできません。そこで、地域に目を向け、地域の中から「人材」を探すことになったのですが、幸い、下宇坂小学校PTAのOBで森林組合に長年勤められている八杉健治氏に、プロジェクトの内容を話し、賛同していただきました。八杉健治氏にはこの後、多大なるご協力をいただくことになりました。

4 活動場所の選定

次に、子ども達の活動場所を選定する必要がありました。一つは低学年のために学校周辺で活動することを考えました。もう一つは、学校林の利用ですが、学校林と言っても、教員はじめPTA会員の誰もがその場所について「よく知らない」状態にありました。

先述の八杉健治氏に案内していただき、見分をしました。学校林は1号林から4号林まであるのですが、3号林以外は山の急斜面に植林されてあったので、子ども達の活動には不的確と考え、本向寺南側に位置し、平らな土地を有する3号林を利用することになりました。学校林に親しみを感じてもらうために子ども達からその愛称を募集しました。その結果、「うさかの森」という名称に決定しました。

低学年は、学校周辺を考えました。遠くへ移動できない低学年にとって、「学校の敷地内でどんぐり拾いができる場所があったらどんなに良いか。」という、学校側の要望を受けて、学校周辺にどんぐり林をつくることになりました。学校の敷地、うっそうとしたクズ繁茂地で雑草が生い茂っている東側斜面手前をPTA総務部員が草刈りを行いました。また、八杉氏の協力の下、重機を入れて開墾し



ました。



その後、どんぐり林のための整備と植樹体験を行いました。子どもたちは「里山」に行って遊んだ経験がほとんどなく、自然林（雑木林）もほとんど知りません。「どんぐり林」はそのような意味でも子ども達にとって必要な場所となるに違いないと考えました。

幼稚園・低学年は、親子でグループになり、シャベルや移植ごてを使って、植える印の場所に穴を掘り、肥料と土を混ぜ合わせてどんぐり苗の植樹を行いました。

高学年の活動場所、「うさかの森」は小学校から歩いて5分くらいの場所にあります。

まず、側道から谷川を超えて「うさかの森」へ渡れるように階段づくりを行いました。階段づくりは八杉氏と地元の林業業者であるフォレストケア高田の方々に手ほどきされ、子どもたちもバラス運びなどのお手伝いを行いました。

「植樹」の次は「間伐」です。数十年かけて育てた苗木を「どうして切り倒してしまうのか」について、子どもたちの中からは「かわいそう」「やめておけばいいのに」などという



声がかげられました。そのため、「間伐」がなぜ必要なのか、森林インストラクターを講師に招き、子どもたちによく分かるように話していただきました。

間伐材は切ってしまうだけでなく、活用することも大切です。4年以上の高学年は、「間伐材を利用したものづくり」として、福井県農林総合事務所の方に教えていただきながら、親子で本立てを制作しました。



そして、大きさも形もばらばらの間伐材を使って、親子で協力して、世界に一つしかない本立てをつくりあげました。

次に「うさかの森」で、「間伐」の体験も行いました。フォレストケア高田の方々から、間伐や枝打ちの実技を見せていただきました。その後、親子で力を合わせて間伐材の運び出しを行いました。たった1本の木を運び



出すのにも大勢の力が必要です。男女問わず、保護者も子どもも汗を拭い、何本もの木を息を合わせ声をかけ合いながら、木に結んだロープを力一杯引き、運び出しました。このような林業体験は、子どもだけでなく保護者にとっても貴重な経験となりました。

5 成果と課題

成果として少しずつではありますが、子どもたちの心に美山の自然に対する関心が高まってきたと思われれます。この関心がやがてふるさとで生きようとする決心に育っていった欲しいと願っています。

ある保護者は、「ゲームばかり遊んでいる我が子が、とても山に関心をもつとは思わなかった。『山遊び』を通して、美山の自然のよさを感じている我が子を見て、誇らしさを感じる自分がいる。」と述懐しています。

今後の課題としてこのようなプロジェクトは、年度当初に年間の計画を組まないで P T A 活動であっても、学校が受け入れるには苦勞することを初めて知りました。あらかじめ前年度の P T A 役員などでおおよその計画を立てておいたので、P T A 総会で保護者全員に協力を求めることができ、多くの活動を実行することができました。また、地域の方々にご協力をいただいたため、スムーズに活動をすすめることができました。地域の方々との連携が何より不可欠だと実感しました。

すべては下宇坂の子のために、P T A が一致団結して「今必要なこと」をよく考え、これからも 10 年先も見通した活動を行っていきたいと思います。不変なこと、それは地域ぐるみで、地域の子を、地域のために立派に育て上げることだと信じています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市下宇坂小学校 P T A

鶉小学校 P T A 竹川 氏

質問 これだけの大きな活動を行うにあたって、学校のカリキュラム、地域での指導者の選定など学校や地域での協力を得るのが、苦勞したのではないのでしょうか。また、この熱い思いをどのように伝えたのか。苦勞話があれば、聞かせてください。

回答 今年度は P T A との連携で行いましたが、前年度は学校で活動を行っていました。地域の中で協力していただける方をいろいろ探していたところ、山のことをよく知っている方がおられたので、前年度、ご協力いただきました、そして、今年度もお願いすることができました。活動は、1 年で終わるのではなく、数年をかけてというように、計画的に行うことが大切だと思っています。これまでは、学校で行っていたのですが、今年度は、P T A でも行っていくこととし、4 月の P T A 総会で協力をお願いしました。

東藤島小学校 P T A 天谷 氏

質問 子ども達に地域の良さを実感させるために、役員さん方で話し合い意見を出し合いこのようなことに絞ってプロジェクトをしようと、考えていかれたのですか。

回答 美山という地域は子どもも少なく、後継者もなかなかいないという中で、少しでも山の子という意識を持たせたいと考えました。どこでも特色をもった地域づくりを進めていると思いますが、やはり、美山という特色をクローズアップしようと考えました。

生徒たちによる地域ボランティア

～ 一部活！ ーボランティア！ ～

福井市社中学校PTA

はじめに

社中学校は、福井県運動公園の北側に位置し、社北小・社西小・社南小の一部が校区となっています。昭和62年開校で市内では、一番新しいかと思いますが、もう25年を経過しました。生徒数は417人、PTA会員数は約370人から構成され、会長・副会長・庶務のもと、以下の委員会でPTA活動を展開しています。

各種委員会	内容	時期
総務委員会	バザー・資源回収の実施	6月、10月
広報委員会	広報誌「社の里」発行	7月、12月
補導委員会	補導活動の実施	夏休み、冬休み
家庭教育委員会	家庭教育講演会の企画・実施	11月

1 地域ボランティア

当校の特徴としては、生徒たち自らが「一部活！ ーボランティア！」を合言葉に積極的に地域に出向きボランティア活動に参加していることです。

この発端は平成20年当時のPTAが、「何とか社中のイメージアップをしたい！」との目的で、公民館活動に参加し始めたことにさかのぼります。

現在では、すっかり定着し年間のべ約600人の生徒が参加し、地域からも歓迎され、そして期待される存在になっています。

恒例となっている主な年間行事は、以下の通りです。



2010.6.8 福井新聞より

4月・11月	あじさいロード清掃	清掃活動
5月	地区体育祭	入場行進演奏・審判係
	ウォークラリー大会	チェックポイント係
7月	社西ビオトープ整備活動	清掃活動
9月	敬老会	誘導案内、演奏・合唱 等
11月	西部緑道イルミネーション	準備・司会進行 等

2 地域ボランティアの事例

【西部緑道 イルミネーション】

地域ボランティアの代表事例として、生徒の発案により恒例行事となった「西部緑道イルミネーション」について紹介します。

西部緑道は、福井市によって整備されましたが、近年では利用者も少なく、寂れた状況となっていました。

平成 21 年度に、当校の生徒たちが「なんとか、地域の宝として復活させたい」と提案し、公民館・育成会等と一体となった「クリスマス イルミネーション」が事業化されました。

LEDを使ったイルミネーション作成等の準備や式当日には豚汁の仕込みから司会進行、演奏、カウントダウンまで、一切を仕切っています。大変寒く、天気も不安定な時期ですが、元気よく取り組んでいます。

教職員の方々も、機材の運搬や企画のアドバイス等、毎年ご協力をいただき、学校と地域との貴重な交流の場にもなっています。

また、新聞やテレビ等マスコミの取材も生徒たちのモチベーションを高める役割を果たしてくれています。



イルミネーション点灯式



点灯されたイルミネーション



地域の方とバレー部による豚汁づくり



放送部・美術などによるイルミネーション設置

【社北体育祭】

地区の体育祭では、吹奏楽部による入場行進演奏、陸上部による審判や誘導、準備係を毎年、引き受けています。母校となる生徒も多く、小学校の先生方や地域の方々にも、子供たちの成長を見てもらう良い機会となっています。

今や、体育祭になくてはならない存在となっています。



準備や審判などの運営に参加する陸上部

3 家庭教育講演会

毎年の定例行事ですが、当校 PTA では地域の方々にも参加を広く呼び掛けており、生徒だけでなく、大人の興味を引くようなテーマで、開催しています。

年度	H23	H24
講師	福井商業高校前監督 北野尚文 氏	K.T.I. 虎ノ門大学院 主任教授 三谷宏治 氏
テーマ	スポーツを通じた人間形成	決める力！ 生き抜く力！
ポスター (校区内の各自治会に配布)	<p>福井市 社中学校PTA 家庭教育講演会 【スポーツを通じた人間形成】 講師：北野尚文氏</p> <p>とき：2011年12月3日(土) 【当日受付 14:00～ 講演 14:30～15:40】 ところ：福井市社中学校 柔剣道室 TEL 35-8310</p> <p>＜講師プロフィール＞ 福井県立福井商業高等学校硬式野球部監督として全国最多となる春夏通算36度の甲子園を経験した、高校野球界を代表する名將。S53選抜大会で準優勝。H22年度をもって監督を勇退。 *地域の方の参加もお待ちしております*</p>	<p>福井市 社中学校PTA 家庭教育講演会 【決める力・生き抜く力】 講師：三谷宏治 氏</p> <p>すべての人に、自ら考え行動する力を一</p> <p>とき：2012年11月18日(日) 【受付 13:30～ 講演 14:00～15:30】 (60分全員向け：30分保護者向け) ところ：福井市社中学校 (TEL 35-8310) 体育館</p> <p>○ 生徒のみなさんへ お母さんばかり自分で決めて、いじめるか？ 選別や就職、仕事や生活をしていく中で、お母さんばかりの意思決定を油断しず、1人で、そしてチームで、今更には「サバイバル」で「決める」練習をします。きっと、一生使える技に必ずなります。</p> <p>○ 保護者・地域のみなさんへ 子どもたちがどうやって、たうこの21世紀を生きていくのか。親たちが自分自身で不安定に揺れています。でもひとつだけ確かなのは、子どもたちが自分自身でその道を切り拓きながら生きていくこと。その自立力アップのための練習を一緒にします。 *地域の方の参加もお待ちしております*</p>

4 おわりに

「学校・家庭・地域」が教育の三本柱とよく言われます。特に、地域との関わりについては、教職員以上にそこに住んでいる保護者（PTA）の果たす役割が大きいと思います。また、取り組む内容についても、生徒たちがやりがいを感じるように、戸惑うことなく自然体で取り組めるような内容にする必要があります。

継続的な取り組みは、より地域に開かれた学校のイメージを印象付けるとともに、当初の目的である社中学校のイメージアップに大きく貢献しています。今後も「貢献心・愛郷心・自立心」を育める地域ボランティア活動を PTA としても、しっかり支援していきたいと思います！



【質疑応答と意見交換】 発表校 福井市社中学校 P T A

質問 校区には、3 公民館があるが、それぞれどのように連携しているのか？

回答 社北公民館関係者に、PTA 会員 OB がおり、情報交換はスムーズに行われている。今や公民館活動になくてはならない存在になっていると思う。
もとは、社北から始まったボランティア活動であるが、その影響が社西等にも広がっていると感じている。

質問 中学校でのバザーは、珍しいと思うが？

回答 PTA 活動の貴重な財源となっている。
毎年、20 万程度の収益となっているが、商品入荷は地区委員さんの協力次第であり、毎年一定の収益をあげることができ、バザーファンが多いことに感謝している。

鳥羽谷の子どもたち

～ つながりを大切にされた地域の風土が子どもたちを育てる ～

若狭町立鳥羽小学校PTA



はじめに

鳥羽小学校は若狭町上中地区の北部に位置し、明治32年4つの小学校を合併し鳥羽尋常小学校を創設し、現在で114年の歴史を刻みました。鳥羽川に沿った田園地帯を校区とし、児童の数は106名、教職員数は18名と小規模の小学校です。またPTA会員数は79名、集落数は13集落あります。

PTA活動については、奉仕作業やバザーそして電話帳の配布に学級PTA、夏休みのプール監視時や、万が一に備えてのAED講習会など、どこの小学校においても行われている行事は一通り行っています。組織としては、会長・副会長以下に3つの委員会（広報・研修・事業）を設け、昨年度は下記の事業を行ってきました。

平成23年度事業

	広報委員会	研修委員会	事業委員会
4月		15(金)委員会・22(金)総会 22(金)合同懇親会(研修委員会主催)	
5月		5/21(土)ウーダーマーチ 親子遠足 学年委員 委員会	委員会 8(日)奉仕作業 (海士坂・三生野・無悪・三田・小原・南・山内)
6月	「あさぎり」第1号発行	委員会	
7月		AED講習会	委員会
8月		プール監視当番	
9月			4(日)奉仕作業 (持田・長江・大鳥羽・朝霧・上黒田・麻生野) 中旬 バザー用品回収開始 バザー用品準備 25(日)リサイクルバザー(※)
10月		10/2(日)ファミリーウォーク 子ども会との共催	
11月		23(火)町PTAソフトバレー 委員会	電話帳回収・配布(※)
12月	委員会	17(土)子育て講演会	
1月	委員会		
2月		役員選挙	
3月	「あさぎり」第2号発行		
		合同懇親会(子ども会主催)	



奉仕作業



AED講習会



今回は、他校とは少しちがった部分に焦点を当て、鳥羽小学校が20年以上、学校の教育活動の中心に据えてきた縦割り活動の伝統とそれを支えるPTAや地域とのつながりについて報告します。そのためには、まず、鳥羽小学校子どもたちの育ちの様子をご理解いただく必要があります。ここでは、春に行われた運動会、鳥羽小学校では「鳥羽リンピック」と称していますが、その様子を紹介いたします。

1 子どもたちの手作り行事「鳥羽リンピック」

鳥羽リンピックとは鳥羽小学校とオリンピックの2つの言葉をあわせて17年前に名付けられました。当時はこの名前に何か違和感があったのですが、今ではその名もすっかり定着し、鳥羽小学校を代表する学校行事となっています。現在では17年の歴史が伝統を生んでいるように思われます。

この鳥羽リンピックは、子どもたちの手作りによる運動会です。毎年、6年生を中心に企画、準備、運営が行われ、毎年違った企画や種目が生まれます。当然先生たちも関わっていただいておりますが、子どもたちの補助的な役割で、マイクから聞こえてくる先生の声はほんの少しです。聞こえるのは放送担当の子どもたちの声がほとんどです。プログラムも子ども達の手書きそのままコピーしたものです。4色の団旗も全て子どもたちの手作りです。そのため、見ている私たちには今年はどんな競技が行われるんだろうという、わくわく感があり子どもたちの生き生きした姿は私たちを惹きつけます。運動会が終わった後は子どもはもちろんのことですが、見ていた私たちまでもが満足感を得、感動してしまいます。今年は涙が出そうな程感動しました。

この鳥羽リンピックの魅力について紹介したいと思います。

その魅力は3つのあるのではないかと思います。

1つ目はまとまり、連帯感です。

6年生が企画した競技はすべて赤、白、青、黄の4つの縦割り班対抗で行われます。競技ごとに点数が付けられ、子どもたちは力を合わせて総合優勝を目指します。競技の他に応援合戦、入場行進でのアピールタイム、チームの団結を表す団旗などの、表彰も行われます。

特に応援合戦では、6年生がリーダーとなり自らが企画し練習を進めていきます。練習を始めたころは入学したての1年生が言うことを聞かなかったり、みんなの声が小さかったりしてうまく進めることができません。6年生は声をからしてしまったり、悩み落ち込んだりすることもあります。

こうして応援合戦優勝を目指して、自分たちだけの応援を自



親子でダンス



放送を担当する子ども



応援練習



応援合戦

分たちの手で創って行きます。このようにして完成した本番での応援合戦はリーダーがみんなを引っ張り、みんなで声を合わせて歌い、踊ります。大声を出すことでストレス発散にもつながっていると思います。

保護者の皆さんが、カメラやビデオを良い位置で撮るため場所とり合戦も始まります。

2つ目は一生懸命さです。子どもたちは、競技はもちろん、役員の仕事までもこなし、すべての行動がきびきびし、見ていても気持ち良く、保護者までもがいつの間にか惹きつけられます。これは鳥羽リンピックが先生方の指導によって動かされているのではなく、子どもたちが自主的に行動することがそう映るのではないかと思います。

3つ目は思いやりが生まれるところです。競技や応援を縦割り班で行うことにより、上級生から下級生に対する思いやりが自然に生まれます。

このような様子を大会のいろんな場面でたくさん見ることが出来ます。この思いやりは、もちろん体育大会だけで培われたものではありません。日頃の学校生活の中で一緒に掃除をしたり、給食を食べたり、金曜日限定での遊びの中で育ってきているように思います。また、鳥羽小学校が20年以上、縦割り活動を学校の教育活動の中心に据えてきた、長い伝統から生まれてきていると思います。この鳥羽リンピックで培われた思いやりの気持ちは、6月以降の学校生活の中で生かされ、さらに育っていくものと思われます。

このような鳥羽リンピックの魅力に惹きつけられ、この行事は保護者にもとても人気があり、毎年、鳥羽地区以外に住まれているおじいちゃんやおばあちゃんそして、卒業生（中学生）たちが部活が終わると駆けつけてくれます。また異動された先生方までも応援にかけつけてくれることもあります。このように鳥羽リンピックは私たち保護者にとって自慢できる行事であり、鳥羽谷の子どもたちを象徴する行事でもあります。

P T A活動もこの鳥羽リンピックのようにみんなでつながりを大切にし、みんなで力を合わせて行われています。その例を2つあげて紹介します。

2 三方五湖ツーデーマーチに親子遠足として参加

1つ目は親子遠足です。

若狭町では毎年、5月の中旬に三方五湖ツーデーマーチが行われます。この行事は若狭町を代表するイベントで、県内外から多くの参加者があり、毎年2日間で5,000名を超える参加者があるようです。

このツーデーマーチに鳥羽小学校として親子で参加しました。目的は体力の向上を図ると共に子どもと保護者のふれ



手作りプログラム・団旗



動出来てい



上級生が下級生に優しく



あいを深めようとするもので、親子遠足として昨年の平成23年度から始まりました。

一つの学校が町（地域）のイベントに学校行事として参加するという、まれに見る奇抜な発想のもと、それに賛同し家族含めて参加するという保護者の理解の中、当日は多くの参加者が集まり、盛大に開催されました。

平成23年度は5月21日に開催されました。コースは若狭三方縄文ロマンパーク・若狭三方縄文博物館を往復する7kmのコースです。

開会式では鳥羽小学校の児童が代表してステージに上がり、気合を入れるガンパロウコールを行いました。

鳥羽小学校として、このツーデーマーチ親子遠足は初めてでありどれだけの参加者があるか不安でしたが、子ども114名、保護者112名、乳幼児13名、教職員16名、

総勢255名と殆どどの保護者の参加を得ることができました。その中において兄弟や、じいちゃん、ばあちゃんを連れ家族みんなで参加する保護者もあり、全員和気あいあいと若狭町の豊かな自然を楽しみながら歩きました。

このように鳥羽谷の大人の方々も大変協力的で積極的に参加して下さいます。

子どもたちの中には初めて参加した人もいたようですが、後の感想で「初めて7キロを歩いて大変疲れたけど、家族みんながいたから楽しかった」また「お母さんの作ってくれた弁当がおいしかった」など親子、家族の絆を改めて再確認することができたのではないかと感じました。また、参加者全員、日本海側の中でも指折りに入る、日本マーチングリーグ登録のイベント、このツーデーマーチに参加することで、完歩の達成感を味わうことができました。

今年（平成24年度）も5月19日（土）に、大変多くの参加者のもと、三方石観音、佐久間艇長記念館を往復する7kmコースに参加しました。

この大会に参加した保護者は、「歩くまでは何かいややな」と思ったそうですが「歩き終わった後、すごい、歩いてよかったわー」等の感想も聞かれ、自己満足感そして子ども同士ふれあい、子どもと大人のふれあいがたくさん生まれ、楽しい時間を過ごすことができ、それが、地域の行事を盛り上げることに一役かうことができ、子どもたち、保護者、地域のつながりをさらに深めることができました。



ガンパロウコール



親子で手をつないで



保護者の満足感



縄文ロマンパークにて

3 地域の一体感を感じる行事・ファミリーウォーク

次にファミリーウォークです。この行事は元々は鳥羽地区の公民館が主催です。そこへ鳥羽小学校のPTAと子ども会も初めて合同で参加、協力しました。地区の公民館行事をみんなで盛り上げようという思いからの発想でしたが、想像以上の地域のたくさんの方の参加で、鳥羽谷の昔から培われた熱い思いが伝わる、地域の一体感を感じる行事になりました。

平成23年10月2日（日）9時20分に鳥羽公民館をスタートし、鈴ヶ嶽トンネル通り抜け～みそみ公民館休憩～闇見神社見学～再びみそみ公民館～鈴ヶ嶽トンネル通り抜け～午後鳥羽小学校に帰ってくるコースです。その後、PTA役員による焼き鳥をつまみながら、女性の会の作る味噌汁で昼食を食べ、抽選会でクライマックスを迎え大変な盛り上がりの中閉会となりました。今年は近畿自動車道敦賀線の鈴ヶ嶽トンネルが完成し、トンネル内を歩くことがこのファミリーウォークの目玉でした。そのためか参加者は多く、鳥羽小学校の子ども91名含む総参加人数は341名でした。

このファミリーウォークを利用したもう一つの思いとして、鳥羽小PTAと子ども会が一体となり平成23年度に初めて企画した、みそみ小学校児童との交流があります。これは鳥羽小学校児童と日頃ふれあうことのない小学校児童による交流の場を設定し、それぞれの小学校児童の親睦を深めるとともに、隣接する互いの小学校の児童同士が顔見知りになることでさらに視野が広がり今後生きていく上で大人も子どもも貴重な経験をしてもらうことが目的です。この地域行事を利用し、他の学校との連携、交流を図ることができました。

当日は1年生～3年生はB&G体育館2階武道場においてレクレーションを行い、鳥羽小41人、みそみ小14人の計55人が参加しました。4年生～6年生はB&G体育館とみそみ小学校でドッチボールを行い、鳥羽小50人、みそみ小34人計84人が参加しました。子どもたちは楽しく交流し、他の学校の子どもたちとのつながりを深めることができました。



みそみ小との交流会

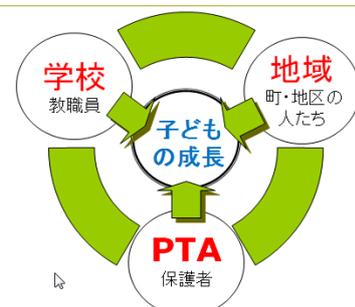
4 つながりをお大切にされた地域の風土が子どもたちを育てる

このように鳥羽小学校では、子どもと学校(教職員)、保護者、鳥羽地域の方々、若狭町全体のつながりを大切にしながら活動を進めています。鳥羽リンピックでの子どもたちの輝きはこのようなつながりを大事にした学校、PTA活動、地域の取り組みの成果だと言えます。

そしてこのようなつながりを大切にされた地域の風土が子どもたちを育てているようにも感じます。

時代の変貌とともに生活感が変わり、保護者の方含め

つながりを大切に



地域の方々の考え方も変化していくとは思いますが、基本的に、今後もこのようにつながりを大切にしながらPTA活動を続けなければならないと思っています。

【質疑応答・意見交換】 発表校 若狭町立鳥羽小学校PTA

質問 学校、地域、PTA活動のつながりが大切であるということは理解できるが、内容をもう少し掘り下げて具体的に説明してほしい。

松陵中PTA

回答 今の時代は、学校、地域、PTAにつながりがないと、子どもたちに何か問題が生じた時に対処できないと思う。いつでもどこでも相談できるよう、地域が子ども達にかかわってくれる。どの小学校にもある、子ども達と話をしながらの『見守り隊』等も、そういう地域とのかかわり合いになるのではないかな。

鳥羽小学校PTA

回答 私が小学生の頃は、よその人によく叱られた記憶がある。スポ少の会長をしているが、スポ少では団員がみんな自分の子のように思え、叱ったり、一緒に喜んだり出来ている。しかし、今はなかなかよその子を叱れなくなったとの話も聞く。叱るということは一つであるが、昔からあって現在希薄になっている人間関係や、それ以外の今の子どもに欠けているものを認識して、今後のPTA活動につなげていきたいと思う。

司会者

意見 鳥羽小の子どもたちは地域にはぐくまれ育っていると感じた。やはり学校、家庭、地域が三位一体となり子どもたちを育てていくことが大切だと思う。

明倫小学校PTA

質問 ツーデーマーチに学校単位で参加という、親子遠足の企画にどんな問題点があったか。

鳥羽小学校PTA

回答 参加に対して保護者がどんな意見をだしてくるか、電車を利用するためJRとの交渉等の2点。

明倫小学校PTA

質問 親子遠足やファミリーウォークをつづける秘訣やヒントがあれば教えてほしい。

鳥羽小学校PTA

回答 親子遠足でファミリーウォークに参加したいとの校長先生の強い思い、保護者が参加してくれるかどうか、保護者が参加できない家の子どもは誰がめんどうをみるかなどの

問題があったが鳥羽の地域性を信じて決断したことを校長先生から聞き、それに賛同する形でPTAで話にのった。秘訣…ではないが、鳥羽に培われた一致団結の精神とでもいうか、校長先生のおっしゃる地域性もあると思う。

小浜中学校 教育講演会の取り組み

国際理解や異文化理解を体感する学校

小浜市立小浜中学校 P T A

はじめに

小浜市立小浜中学校は小浜地区・雲浜地区・西津地区・内外海地区の市内4つの地区からの生徒が集っています。

その歴史を紐解けば昭和22年に小浜町竹原に小浜町立小浜中学校として創立し、昭和26年に若狭高校と校舎校地の交換を経て現在の小浜市雲浜に校舎を移しています。

その校舎は小浜湾に接し、海からの清々しい潮風を感じながら、現在1年生119人・2年生141人・3年生142人の合計402人の生徒が、元気に学校生活を過ごしています。

1 本校 P T A の活動について

本校 P T A は「教育講演会」を毎年9月の第一土曜日に開催しています。この日は本校の文化祭の日でもあり、また翌日が体育祭と言う日程の中での開催となっています。

一昨年の2010年は雅楽演奏会、昨年2011年は中国雑技団公演会を本校の第一体育館で開催しました。

教育講演会の「ねらい」は2つあります。

①日常生活では味わえないものを、生徒に体感させよう

②生徒が国際理解・異文化理解を深められるように

というものです。

また本校の教育講演会の特徴としても2つの事があります。

一つは、P T A と生徒会が共催で実施している点です。

全体の司会進行は生徒会の生徒たちが担当します。

また保護者全体へも案内し、その結果例年40～50人ほど参観に来られます。

もう一つは、公演の中で必ず生徒が参加・体験できる場面を設定しています。

子供たちは体験を通してより深く文化に触れる機会になっています。

そして文化を感じることから大きな感動を得ます。

そのような仕掛けを用意しています。



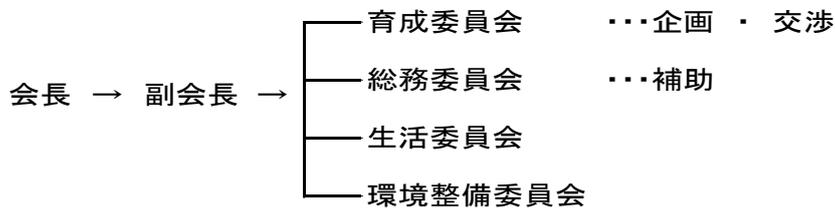
左の写真は2010年の『雅楽演奏会』の一場面です。京都河原町雅韻会の会員18名が来校していただきました。日頃聞く機会の少ない雅楽の演奏や舞を披露してもらいました。



こちらは2011年の『中国雑技団公演会』の一場面です。
横浜中華街の中国雑技団団員4名が来校くださいました。

2 2011年度「教育講演会」の取り組みについて

それでは、昨年実施しました中国雑技団公演会を例に概要を説明します。



講演会の企画は、上図にもありますように、PTAの4委員会のうち育成委員が担当し、総務委員会が補助をする体制になっています。

育成委員会では、3月中旬の委員長引き継ぎ時よりさっそく企画を考え始めます。そして4月中旬の第1回育成委員会で大雑把に企画案を検討し、5月中には企画案を絞り込みます。そして日時や金額等を候補者に交渉を重ね、最終的に5月下旬までには、企画が決定することになります。

ちなみに、今年度は大道芸パフォーマーのMr. オクチさんとアクロバットパフォーマーの界さんに、上記の予定通りに交渉しました。

そして計画通り9月の文化祭で講演会を行い、生徒や保護者、そして先生方にも笑顔が溢れました。



では次に昨年の『中国雑技団公演会』から、当日の様子について写真付きで解説いたします。

1番目は、孫悟空に扮した団員による、剣の舞です。

ステージから生徒席前へ、空中回転しながら降りてくるなど妙技が続き、生徒の歓声がわきました。

生徒がステージにあげられて、孫悟空から、キメのポーズを習っている場面です。

先ほど述べた「生徒が参加・体験できる場面」にあたります。



2番目は「こま回し」です。日本のお正月に回す「こま」とは違います。こういうあたりも、異文化を知るいい機会でしょう。

生徒がステージにあげられ、こま回しに挑戦しています。



3番目は最後にたいへん盛り上がった「変面ショー」の様子です。顔につけた仮面が一瞬にして次々に変わっていきます。どんな仕掛けなのか分からず、仮面が変わるたびに大歓声が続きました。

本当かどうかはともかく、変面の仕掛けは中国の国家機密だと誰かが言っていました。

先ほど述べた2つのねらい「①生徒に日常生活では味わえないものを体感させよう。」「②生徒に国際理解・異文化理解を深めさせよう。」が随所に盛り込まれた講演でありました。

最後にその成果と課題についてまとめたいと思います。

まず「成果」については、

- ①身近で見たり聞いたりできないものだから、驚きと感動が強いです。生徒・保護者・教職員が、ともにその驚きと感動を共有できます。
- ②そして、手拍子や声援、生徒参加でたいへん盛り上がります。
- ③生徒の「振り返りの感想」の中にも、ただ単に「おもしろかった」だけではなく、将来の進路に多少なりとも刺激を与えられているように感じます。

最後に「課題」についてですが、

- ①文化祭の日時が、4月の年度初めに決まっているので、その日に空いている講演者を探すのに苦労があります。たいていこの9月初旬の土・日は、文化祭や文化講演会などが各地で催されるので、人気のある講演者はすでに予約済みで、あきらめなければならない場合もあります。できるだけ早くにコンタクトをとり、空いている講演者を確保する必要があります。
- ②2点目は、予算の問題です。最近の生徒数の減少によりPTA会員数も減少傾向にあります。当然そうなると会費収入も減少してきています。そのようななかで、今までと同じレベルで講演会予算をつけていけるのかどうかという点も課題だと考えます。
- ③遠くから講演者を呼ぶ場合は、台風などの天候次第で来られなくなるリスクも考えないといけません。

実際、去年は台風が近づいていてやきもきました。

以上、今回は『2011年は中国雑技団公演会』を中心に当校の取り組みを説明させていた

だきました。

非常に評判が良い企画であり、次年度以降もこの取り組みは続けて行ければと思うしだいです。

【質疑応答と意見交換】

野木小学校 田中PTA会長

日常では味わえない驚きと感動又、異文化を生で見せて体験させる、素晴らしい教育講演会だと思います。

私も子供達と地域の方々にも参加していただいて、落語を見せてもらったが映像や写真と違って、音や動作を直接感じて、扇子と手拭で情景を見せる。又、それを自分たちの仲間がやれば大変盛り上がり、楽しい講演になったと記憶しています。

今後とも、企画・運営大変でしょうが、子供たちに驚きと感動を与えられるよう、頑張ってくださいと思います。

閉会挨拶より

福井県PTA丹南ブロック長 浜野 県P連副会長

どれ位の予算をもって運営されているか気になるころですが、出来ることなら、参加費を払ってでもうちの子供たちに参加させたいと思いました。

大変素晴らしい取り組みだと思います。

平成24年度 福井県高等学校PTA指導者研修会 実施状況一覧

《 地区別研修会 》

地区・期日・会場	講演内容・講師	発表校
【 嶺北地区 】 9月15日(土) 福井県生活学習館	基調講演 『人生とは学び続けることである』 講 師 前田工織株式会社 代表取締役社長 前田 征利 氏	福井県立藤島高等学校PTA 福井県立武生東高等学校PTA
【 嶺南地区 】 9月8日(土) 県立三方青年の家	基調講演 『人との出会いが心を育てる』 講 師 ホテルアーバンポート 取締役 山岸 和恵 氏	福井県立若狭東高等学校PTA

本校のPTA活動について

～学校と家庭・地域社会の連携を目指して～

福井県立藤島高等学校PTA

はじめに

本校は全日制の普通科高校で、ほとんどすべての生徒が大学等への進学を目指している。生徒たちの目標を達成させるため、本校では教科指導とともに進路指導に重点を置いている。また、文部科学省に指定されたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、理科・数学に重点をおいた教育課程の開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策の研究などを推進し、将来我が国の科学界に貢献しうる、創造性に富み、忍耐力を備えた人材の育成を図っている。本校では「真理と正義を愛する」「自主と責任を重んずる」「敬愛と協同を尊ぶ」を教育信条とし、「21世紀を担うリーダーの育成」を教育方針に教育活動が行われている。

1 本校のPTA組織

(1) 役員構成

- ①会長 1名(保護者1名)
- ②副会長 4名(校長1名 保護者3名)
- ③庶務 若干名(教職員1名 保護者若干名)
- ④会計 2名(教職員1名 保護者1名)

(2) 常設委員会

①学級委員会

各学級より選出された男女各1名よりなり、会長がこれを委嘱する。

主な任務は、総会に提出する議案を審議したり、本会運営上の企画および重要案件について審議する。

②常任委員会

学級委員の互選により若干名を定め、会長がこれを委嘱する。

主な任務は、学級委員会に提出する議案を審議検討する。

(3) PTA年間行事（平成23年度）

4月	入学式 P T A会計監査、新旧役員会 第1回学級委員会・第2回常任委員会	8月	P T A講演会
5月	P T A総会・第2回常任委員会 ようこそ先輩	9月	P T A一斉街頭交通指導 職業観育成講座
6月	緊急メール導入検討委員会	12月	P T A通信NO.50発刊
7月	第2回学級委員会・第3回常任委員会 キャリア教育講座	2月	第4回常任委員会
		3月	卒業式 P T A役員選考委員会

2 本校のP T A活動

柱となる4つの活動

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校・O B・P T Aの連携 (2) P T A主催事業の開催 (3) 広報誌を活用した体験の共有 (4) 教育環境整備支援 |
|--|

(1) 学校・O B・P T Aの連携

本校では以下のような3つのキャリア教育に関する事業を学校とO B、P T Aが連携して実施しており、藤島高校のキャリア教育のカリキュラム化に協力している。

①事業1 「ようこそ先輩」

本校の同窓生の協力のもと、各界で活躍している様々な職業・専門の方々に職業観、人生観を語っていただき、生徒自身の進路選択に役立てる。同窓生(45歳の方)が毎年35名程度講師を努め、P T Aも多く含まれている。教育課程に位置づけられた授業として全校生徒が希望する講座を一つ選択して受講する。



(H24.5.25 実施) 「ようこそ先輩」授業風景

②事業2 「職業観育成講座」

異なる職業の方々がパネラーとなりパネルディスカッションを通して、生徒の「職業観」を育成するとともに進路選択に役立てる。パネラー4名はP T Aが選出している。教育課程に位置づけられた授業として、1年生が全員参加する。



(H24.7.10 実施) パネラーの方々

③事業3 「キャリア教育講座」

実際の職場を見学させていただき、職業人としてのあり方、生き方を学ぶ。職場訪問先はP T Aも協力している。参加を希望する1年生対象で、例年200人程度の1年生が参加している。



職場訪問の様子

(2) P T A主催事業の開催

「P T A講演会」

P T Aが主体となり、8月上旬の日曜日に保護者対象に開催する。子どもたちのおかれている状況を理解し、より良い親子関係を築くため、専門家のお話を伺い研鑽を深めるとともに、P T A会員間の交流を図ることを目的として毎年実施している。テーマは主に「心の問題」や「大学受験」をとりあげている。



P T A講演会の様子

(過去5年間のP T A講演会テーマ)

年度	テ ー マ
‘12	講演 「希望学」
‘11	講演Ⅰ「受験生を持つ親の心構え」 講演Ⅱ「企業が求める人材とは」
‘10	講演 「子どもの夢実現に向けて」 ～大学入試の現状と保護者の心構え～
‘09	講演 「子ども達は今～子どもへの視点を変えてみよう～」 第1部 思春期の子ども達 第2部 子どもの自発性を育むために～今大人にできることとは～
‘08	講演Ⅰ「揺れる子どもの心、揺れる大人の心」 講演Ⅱ「人生は誰のもの？」 ～学力世界一!?フィンランド教育から本当の学力を考える～

<今年のP T A講演会後の保護者アンケートから>

- ・人生は思い通りにいかないことの方が多い。優等生だった子の挫折の対処、再び前へ進んでいく礎をいただいたと思う。
- ・子どもの文理選択、職業選択について、毎日家族で話し合ってもなかなか明確にならず、親子共々困っていた折り、「悩むことが大切」というお話は、大変参考になった。
- ・小さい頃から好きだったものはずっと好きだというお話に、自分の人生を振り返り共感を覚えた。時間を忘れ楽しませていただいた。

(3) 広報誌を活用した体験の共有

P T A通信編集委員会の活動によって「P T A通信」を年1回12月に発刊している。P T A通信を読んだ方同士が体験を共有できることを念頭に、読者の視点に立ったP T A通信の編集に取り組んでいる。年間20回にもおよぶ編集会議を重ね、「P T Aサロン」、「実社会からのメッセージ」、「親子合格体験記」、「特別企画」など毎年内容の充実を図っている。



編集委員会の様子



P T A通信（過去5年間）

本校のP T A通信の特色は、

- ・約80ページに及ぶ通信誌である。
- ・様々な立場の人に執筆していただき、多くの人の思いが込められている。
- ・学校を取り巻く社会情勢を反映させ、本校の歴史が記された資料としても価値がある。

（4）教育環境整備支援

- ・エアコン設置

ウインド型クーラーが老朽化し、通常タイプのクーラーに更新し、学習環境の向上を図った。

- ・緊急メールシステム導入

非常災害時等の緊急連絡の必要性から導入した。

（5）その他の取組

保護者の目としてのP T A活動

- ①一斉街頭指導（生徒指導部との連携・協力）
- ②学校指定物品選定委員（購買部との連携・協力）
- ③修学旅行委員（学校の修学旅行委員会との連携・協力）

3 終わりに

本校P T A活動では、学校と家庭・地域社会が連携した教育活動の実践を目指している。その中でも特に、進路に関して出口としての大学受験だけに関心を持つのではなく、個々の生徒が自分自身の生き方を考えることに重きを置くキャリア教育事業を学校と連携して実践している。また、P T A講演会やP T A通信の発刊を通して、子ども達の学校生活や将来の進路について親子間のコミュニケーションや相互理解が進むことを期待している。

私たちP T Aは、学校と家庭・地域が共通理解をもち、これからも連携・協力して、子ども達の成長につながるような教育活動を実践していきたい。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立藤島高等学校P T A

福井県高等学校P T A連合会会長 掛谷 氏

質問 藤島の冊子は年1回出されているが、他校は2、3回である。1回だけですがいい量で

作られているが、いつ頃から年1回になったのか、また、年2回に分けて発行する考えはないのか。

藤島高校PTA

回答 第1号から今のようなかたちで発刊。年1回でほとんど精力を使い果たして、2・3回はたぶん無理。毎年20回にも及ぶ会合を重ねて作る冊子であり、そのかわり、内容は非常に充実したものとして且つその号を読めばその年の藤島高校あるいはその時の社会状況などがわかる冊子となっている。

丸岡高校PTA事務局

質問 20回の会合を開いていると聞いたが、お昼にしているのか。

藤島高校 編集委員長 道鎮 氏

回答 20回と申し上げたが学校で集まるのが20回程、それ以外で各パートのリーダーのもとそれぞれ集まっているのでそうとうの回数になると思う。学校で集まっている時間帯は13時～17時頃まで。パートで集まれなかった時はメール、電話などでやり取りをしている。この活動に費やす時間はものすごい時間だと自分でやっても思うし、各パートの方もかなりの時間を費やしていると思う。今までの編集長はじめ編集委員のみなさんも大変だっただろうと実感する。

丸岡高校PTA

意見 我々のところではどうしてもお母さん方のお仕事があり19時30分～21時30分頃までが限界である。年に第1号・2号とあり5月には新しい先生方が入ってこられるので号外をだすようなペースでないといけないので、この広報誌には頭が下がると底力のすごさをあらためて感じた。

坂井農業高校PTA

質問 ようこそ先輩、職業観育成講座、キャリア教育講座は、いつ頃より始めたのか。また、それらの講座を聞いて生徒たちはどのように変わっていったのか。

藤島高校PTA

回答 ようこそ先輩は同窓会総会の幹事学年、45歳になった同窓生が担当している。14年前にNHK番組をみた同窓会がなかば高校におしかけるかたちで始まった。キャリア教育講座はいつからはじまったかはわからないので調べて報告させていただきます。

職業観育成講座は1年副会長が担当で4人のパネラーを選んで行っている。極めて短時間の中で劇的に子どもが変わるという事はないだろうと思う。ただ子ども達がそういうものに触れる機会を積極的に作ることで触発されることがあれば良いと思う。職業観育成講座については子ども達からは「どんなに仕事が厳しくても辛さと同時に楽しみがある。」「文理選択だけでなく人生について教えられたような気がする。」「文理選択に

は得意よりも好きが大切。」「いろんな人の価値観や仕事に対する熱意を聞いて良かった。」というような感想をもらっているので、やる意味はあると思う。

武生東高校PTAの特色ある活動

～地区別懇談会の実施をとおして～

福井県立武生東高等学校PTA

はじめに

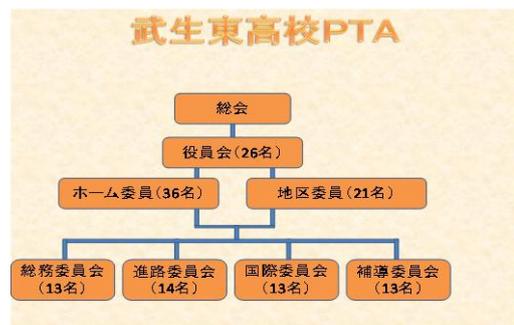
福井県立武生東高等学校は今年創立26年目を迎える。越前市東部ののどかな田園地帯で、北陸自動車道の武生インターの近くに位置する。各学年とも普通科4クラスと国際科2クラスで編成されており、全校生徒数は約620名である。学校の近くにそびえ立つ名峰日野山にあやかり、Healthy、Intelligent、Nobleの頭文字をつないで、HINOISMが学校のモットーとして掲げられている。また、スクールカラーは、学校名の「東」にちなみ、東の空に明るく輝く太陽をイメージし、その太陽のように生徒全員が輝いて欲しいと願って、フレームオレンジ色となっている。多くの生徒は、このスクールモットーやスクールカラーに込められた願いを心にとめて、学校生活を送っている。生徒同士や、生徒と先生の仲がとても良く、互いに信頼関係を大切にしている。学校を訪問すると、生徒が、必ず「こんにちは！」という元気なあいさつをしてくれるのがとても清々しい。PTA役員として文化祭や体育祭など学校行事に参加することがあるが、生徒が互いに尊重し合いながら、とてもいい人間関係を作っていることによく感動する。

武生東高校は進学校としても年々その実績を高めており、昨年度は、卒業生の約半数が国公立大学への進学を決めたほか、大多数の生徒が各方面へ進学をしている。一方、部活動や様々な校外での活動も盛んである。部活動は3年生まで全校生徒のほとんどが参加しており、男子ソフトボール部や吹奏楽部は本県を代表する部活動である。また、国際科の生徒を中心としたチームも、毎年のように本県を代表して英語ディベート大会全国大会で優秀な成績を収めているほか、食育王選手権でも全国優勝した実績がある。文武両道の精神を大切にしたい、先生と生徒全員で創り上げていっている学校であると思う。学校では、卒業生に対し毎年卒業時に調査を行うようだが、その結果は、武生東高校で高校生活を送れて良かったと答える卒業生が本当に多いそうである。また、武生東高校に子供を通わせている保護者も、この学校へ子供を入れたことを心から喜んでおられる方がほとんどである。このように頑張っている生徒のさらなる健全な育成を目指して、PTAとしてもその関わり方を模索しながら、本校PTAも積極的な活動を行っている。

1 武生東高校PTAの組織

武生東高校PTAの組織は次の通りである。

本校PTAは、会員の中から年度初めに役員、並びにホーム委員、地区委員を選出する。役員会は、会長1名、副会長3名、幹事18名、会計監査を行う監事が2名、それに校長、教頭により構成される。また、新年度当初ホーム（学級）ごと



PTA組織

に選挙を行い、2名ずつホーム委員を選出している。さらに、子供たちの出身中学校ごとに1名ずつ地区委員を選出している。地区委員選出については選挙ではなく、前任者が推薦した方をお願いをするという形をとっている。このように選出された役員、ホーム委員、地区委員の方々はそれぞれの担当の活動を行うと共に、これらの役員、委員全体で常任委員会を組織し、総務委員会、進路委員会、国際委員会、補導委員会の4つの専門委員会に分かれて活動を行っている。国際委員会は、本校ならではの委員会である。

2 武生東高校PTAの年間活動

本校PTAの年間活動内容をまとめた。

4月当初、入学式にあわせPTA入会式が行われ1学期がスタートする。PTAホーム委員選挙が行われ、4月下旬には第1回役員会を開催する。4月には姉妹校の生徒さんが訪問することも多く、その受け入れ行事やホームステイなど国際委員会を中心に協力する。

5月には上旬に常任委員会、中旬には総会を開催する。この日は総会に引き続き、進路委員会の協力のもと、学年ごとの保護者研修会を開催する。本校の総会出席率は、ここ数年約45%程度である。なお、この日の夜には、常任委員と先生方を中心に懇親会を開催している。なお、PTA関係組織としての本校独自の「国際科を育てる会」の総会も5月に行っている。



PTA総会

6月には総務委員会によるPTA会報の編集、補導委員会と^{学校への共働}による交通安全街頭指導などを行っている。

7月には総務委員会がPTA会報「HINO だより」を発行、また学校祭企画の準備会を保護者が保護者懇談会に来校するのにあわせ実施している。夏休みに入ると間もなく、出身中学校ごとに地区別懇談会を開催している。

8月には補導委員会による校外補導を行っているほか、本校の姉妹校交流派遣事業に協力をしている。



9月に入ると、学校祭へPTA企画として参加している。ここ数年は、「カフェ・イースト」という名前の模擬店を出している。今年は平日にもかかわらず40名もの保護者で準備・販売を行った。メニューはかき氷、唐揚げ、カップケーキ、フルーツポンチで、いずれも100円で販売、3時間ほどの間に600食を完売した。この収益は生徒会の収益にあわせて義援金として被災地に送られることになっ

て

学校祭PTA企画

いる。9月には第2回役員会、交通安全街頭指導、姉妹校受け入れ協力なども行われる。

10月には学年ごとに保護者研修会が開催されるが、この行事にも進路委員会が協力して

いる。また開校以来毎年この時期にPTA研修旅行を開催している。研修旅行は、近隣他県の国立大学を中心に大学訪問を行っており、一昨年は滋賀大学他、昨年度は金沢大学他を訪問した。今年は岐阜大学へ訪問する予定である。参加者は平日ということもあり30名足らずであり、参加者をどのように増やすかが今後の課題となっている。

11月には、国際理解研修会への国際委員会の協力がある。

12月には、丹南地区6校PTAの共同による冬期スクールバスが運行開始される。また、学期末にあわせ2回目の会報「HINOだより」を発行している。

1月以降は、年間のまとめと次年度への申し送りなどを検討する。次年度の役員組織は、会則により役員選考委員会がその原案を作ることになっており、1回目の会議は2月に、2回目は新年度の合格者が決まって直後に開催している。

なお、年間を通じて数回、PTA会員同士や教員とともに、親睦と慰労を目的とした懇親会を開催している。



PTA研修旅行

3 地区別懇談会の実施

このように本校PTAは年間を通して活動を行っているが、これらの活動の中で本校PTA活動の特色の一つである「地区別懇談会の実施」について説明をする。

本校PTAでは開校以来毎年、夏休みに入って間もない時期に「地区別懇談会」を開催している。武生東高校には、現在、北は坂井市から南は美浜町までの25の中学校を母校とした生徒が通学している。地区割りについて、丹南地区以外は、福井・坂井地区、嶺南地区をひとつの地区にまとめているが、丹南地区は、おおそ中学校ごとに別々に懇談会を開催している。それぞれの懇談会には、学校から校長、教頭、部長、学年主任も出席し、PTAからは会長や副会長が出席するため、すべての地区を同じ時期に行うことはできず、3年間に1回は必ずまわることができるように計画している。この懇談会は、それぞれの地区の地区委員さんを中心に準備を行い、当日の進行も行っている。学校側から簡単に現状の報告があったあとは、なごやかな雰囲気の中話し合いが進められる。内容は多岐にわたり、先生方への質問や学校への要望がある中、PTAとして、または保護者として取り組むべきことも多く話題になる。どの会場でも話題の中心となることについて次に述べる。



PTA地区別懇談会

第一に学習についての話題である。勉強をしない子供に対する親の接し方や成績の伸び悩みの原因、夏休みの学習方法や文理分けの考え方、塾に行く効果などについて意見交換を行い、また先生方への質問が出される。また進路選択について、推薦入試やAO入試の知識、子供と共に考える進路選択、受験生の心理や受験生に対する親の態度などについてはどの保護者も関心が強いようで、

積極的な話し合いとなる。入試制度が少しずつ変化しており、自分の経験はあまり役に立たないという保護者も多く、受験生を持つ親同士の情報交換や学校側からの説明が、とても役立っているようである。

第二に、学校生活や校則、部活動に関することである。冷房のこと、友人関係のこと、服装の乱れ、携帯電話持ち込み規則などについてが話題の中心になる。校門の外でのみ携帯電話の使用が許可されていることになっているが、親としては不便だという意見も出てくる。私たちが含め現代人に携帯電話は不可欠なものであるが、学校内でこれを使うことについて、賛成と反対の意見が出ておもしろい討議ができる。部活動関係では、部活動で培われる力を認め、その充実ぶりを喜びながらも、学習との両立ができていないか心配だと言う意見が多く聞かれる。他の家庭の様子を聞いて、うちも同じだと変に安心する場面もある。

第三に、登下校時に関することである。本校の保護者や卒業生の親、中学生の保護者などから、「武生東高校は本当にいい学校だと思うのだけれど、一つ難を言えば、交通の便があまり良くない」ということをよく耳にする。確かに、学校と最寄り駅の武生駅の距離は5kmを超え、自宅から通う手段が自転車しかない生徒はさらに長い距離を通うことになる。これにあわせ下校時の不審者対策、保護者の送迎ルールなど、学校内のことは学校にお任せするにしても、登下校に関しては学校にお任せすることではなく、PTAや保護者として考えなければならない問題である。地区別懇談会では、特に同じ地区から子供を通学させているということから、登下校については共通の問題意識のもと活発な話し合いになる。

この懇談会の要望をうけ、学校とPTAの両者で関係機関や会社に陳情に行き、校門前の道路整備・ナトリウム灯設置・バス待合室設置や下校時バスの増便などが実現した。冬期間、丹南地区の6つの高校合同で、スクールバスを運行しているが、昨年度は利用者減で、路線の廃止がいくつかあったため、関係地区の保護者の要望を受け、本校PTA独自にスクールバスを運行した。ただこのような状況においても、保護者による自動車送迎が年々増加しており、学校前の道路の運転に関する約束事をPTAとして全保護者にお願いしている。さらに、登下校時の不審者情報や緊急時の連絡のため、PTA経費で緊急連絡システムを整備し活用しているのも、もともとはこの地区別懇談会での要望によるものがあった。さらに、普通教室の冷房装置に関しては、約10年前にPTAと同窓会により設置することとなったことも、この懇談会の意見が反映されている。

この地区懇談会に参加した保護者からは、「自分と同じ思いや悩みの保護者がおられ少し安心した」「普段疑問に思っていることがよくわかった」「学校が一人一人の生徒を大切に育ててくれていることを実感する」などというコメントがあり、それぞれの会場で有意義な時間となっている。この懇談会で話題となり、さらに検討していただくことが必要なことについては、その後のPTA役員会で取り上げていっており、今後も様々な意見や要望をくみ取って行きたいと考えている。

最後になるが、武生東高校は子供たちにとっても、私たち保護者にとってもとても良い学校だと思う。しかし、さらに魅力ある学校、通いやすい学校にするために、私たちPTAの役割は何かということもこれからも考えながら、有意義な活動を進めていきたいと思う。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立武生東高等学校 P T A

春江工業高等学校 山越 氏

質問 緊急メールシステムの運用状況について、上手く運用されていますか？

回答 運営費用は P T A が負担しています。運用は教務部で担当して頂いております。緊急連絡は、担当先生がご自宅等どこからでも登録出来る仕組みになっており、迅速な対応をして頂いております。また、学校行事等の連絡にも活用をしています。学校から家庭への案内等を見せない生徒さんがいるのでお願いし対応して頂いております。

科学技術高等学校 斉藤 氏

質問 姉妹校受入れとは留学生の受入れですか？対応が難しくはないですか？

回答 毎年姉妹校が 1 週間位来日します。今年度は 2 校です。滞在期間中、生徒さんを東高校生徒のホームステイで受入れを行なっております。当初は受入れて下さる家庭が少なく対応に苦慮していたことがあったようですが、このところは受入希望先が増え、場合によっては抽選となることがあると聞いています。その際は初めての方を優先としているようです。

科学技術高等学校 斉藤 氏

意見 ローター一等でホームティ受入れを募集することがありますが、受入先がなかなか集まらず困るという経験をしたことがあります。東高校さんでは抽選になるほど受入れ希望家庭が多いのは素晴らしいことで感心しました。

武生東高校 P T A 会長 小谷 氏

回答 受入家庭では聞くところによると意外にもおじいちゃん、おばあちゃんに喜ばれていると聞いており、よいコミュニケーションがとれているようです。

若狭東高校のPTA活動

福井県立若狭東高等学校PTA

はじめに

若狭東高校は小浜市にあり、周辺には明通寺、神宮寺、鶉の瀬などの歴史的建造物や自然が多くあり教育環境にも適した地域である。現在は、来年の総合産業高校開校に向けて学校再編準備をすすめているので、新若狭東高校の準備状況なども説明させていただきます。

1 PTA活動

(1) 事業計画

PTA事業計画(1学期)

- 4月 9日 地区別委員投票(17日集約)
- 20日 平成28年度会計監査
- 5月 12日 第1回全委員会(役員選出、事業報告、決算報告、各委員の決定、第1回各委員会)
- 18日 県高P連理事会
- 19日 PTA総会(午後)
- 6月 7日 県高P連総会(AOSSA)
- 13日 PTA懇談会「大飯・高浜」会場(おおい町市民センター)
- 16日 PTA会長会議
- 20日 PTA懇談会「小浜」会場(若狭東高校)
- 30日 PTA役員研修会
- 7月 6日 北信越高P連研究大会(富山～7日)
- 9日 第2回校外補導委員会(地区懇談会の総括・二学期の取り組み)
- 19日 1学期末保護者懇談会 PTAだより「ゆずりは」発行

本校は4月9日に地区別委員の投票が始まり、5月12日には第1回全委員会が行われ、各委員会に分かれて1年間の活動について話し合いがなされました。

5月19日の午前中はオープンスクール、午後からPTA総会が開催され118名の参加がありました。6月13日におおい町市民センター、20日には若狭東高校で地区別懇談会が開催されました。7月19日の1学期保護者懇談会ではPTAだより「ゆずりは」を発行しました。

(2) PTA総会



が説明を聞きます。

PTA総会では、最初に新役員が承認されて新体制となり、新旧会長より挨拶が行われ、その後には事業計画・予算について審議されます。保護者からの意見や質問はPTA役員と学校側で真摯に対応しています。

PTA総会終了後は、2・3年生の保護者対象に、進路別研修会が開催されました。進路別研修会では、就職と進学に分かれて行われます。進学希望者は、コミュニティーホールに設置された各学校ブースで、担当者から生徒と保護者

(3) 各種委員会

本校のPTA役員は、総務委員会、研修委員会、校外補導委員会、広報委員会の4つの委員会に分かれて1年間活動していきます。

① 総務委員会

全委員会で今年度の予算と事業計画について検討します。さらに、各種PTA研修会などの参加について検討します。また、総務委員長はPTA総会での司会を努めます。今年度のPTA総会の議事運営も滞りなく行われました。

② 研修委員会

学校祭で親子ふれあい喫茶を開催します。本年度は10月2日の学校祭1日目に行われ、研修委員が慣れた手つきでピザなどを作っていました。生徒からは大好評で、開店と同時に行列ができます。そのため休む間もなく商品を作ることになりますが、保護者と生徒も会話が弾み楽しい時間となっています。



③ 校外補導委員会

若狭東高校生の多くが利用する東小浜駅で9月3日に校外補導を行いました。また、校外補導委員長はPTA地区別懇談会での議事運営のため司会進行を務めます。今年度の地区別懇談会は夜遅くまで熱心な意見交換が行われ、保護者からは子どもから高校生活が充実していて楽しいと聞いているという意見がありました。

④ 広報委員会

PTA広報誌「ゆずりは」の発行から学校行事の記録を行っています。「ゆずりは」は年間3回の発行に向けて広報委員会を開催し、保護者の意見を取り入れた内容にしています。部活動の写真は顧問より提供していただき、生徒の生き生きとした活動で制作しています。今年度より、各号カラーページを合計4ページに増やしました。



広報委員会では年間カレンダーも作成しています。年間カレンダーは、学校行事を黒色、部活動を緑色、模擬試験を紫色、各種資格検定を赤色、PTA活動を黄色に分けて表示しており見やすいものとなっています。若狭東高校の1年間の活動が一目



で分かるため、保護者からはたいへん好評となっています。

2 新若狭東高校

(1) 総合産業高校

若狭東高校は、来年4月に総合産業高校として再編されます。現在は「明日の若狭を創る—新若狭東高等学校」をスローガンとして開校の準備をしています。新若狭東高校は次の4点の特徴があります。

- ①農業科、家庭科、工業科、商業科の総合産業高校となり、専門的な学習が出来る。
- ②地域企業と連携した実践教育を行い、地域のニーズに応える人材を育成する。
- ③興味、関心、進路に応じ、他学科の科目も選択できる。
- ④国際的な視野やコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。

(2) 学科構成

新若狭東高校では、普通科が無くなるなど大きな変化があります。

農業系では、生活創造科と地域創造科の2クラスになります。地域創造科では、食農創造コース・地域開発コースがあり2年生からコース分けの体制となります。

工業系では、電気機械科と学科名が一つになりますが、入学時より電子機械コース・電気コースの2クラスとなります。

商業系では、ビジネス情報科に、経営コース・情報コースの2クラスができ、これも入学時から分かれます。



生活創造科

農業分野の科目として農業と環境や、生物活用を学習します。家庭分野ではフードデザイン、食文化、ファッション造形基礎、子どもの発達と保育、生活と福祉など専門科目を学習します。生活創造科は今後も地域連携を継続して、小浜市内の「やまと庵」や、高浜町の「コパン」などで生徒がレストランを出店し創作料理を提供します。また、食育にも力を入れていて、楽しみながら食の大切さを学べるよう食育カルタなどを作り、子どもたちと交流しています。



地域創造科

食農創造コース

農業経営、草花、植物バイオテクノロジーなどを学習し、生産から加工まで安心・安全な食の提供を目指しています。食農創造コースでは地域連携に力を入れ、今後も地元や県外のイベントに積極的に参加し、若狭の食のPRの一躍を担っていきます。本校が協力している花いっぱい運動も、今では市内各地

域に浸透してきた行事となってきました。



地域開発コース

これまでの伝統である土木技術者の育成をさらに充実させます。また、環境教育にも力を入れ地域連携した環境学習では、木の実から搾った環境に優しいニスづくりに挑戦しました。国家資格の合格率では2級土木施工管理技士で9割程度、測量士補でも8割程度の実績があります。農業クラブの全国大会平板測量部門で、3年連続優秀賞に輝いています。



電気機械科

電子機械コース

機械設計、機械工作、製図などの専門科目を学び電子回路などを作製します。実習では、機械加工の旋盤や自動車エンジンなども制作もします。福井県の課題研究発表会では水力発電装置で優秀賞に輝きました。ロボットコンテストにも参加し、全国大会に出場した実績もあります。今後もこのような活動を積極的に取り組んでいきます。



電気コース

電気基礎、電力技術、情報技術などを学習し、実習ではアンプ付スピーカーなども製作します。また、ロボットを使った制御実習も行います。将来に役に立つ国家資格から様々な検定の取得を目指します。難関の第1種電気工事士には、1年生からでも合格することができます。環境エネルギー教育を推進しており、課題研究では風力発電装置を製作しました。



ビジネス情報科

経営コース

簿記を中心に、企業経営や商品開発について学びます。総合実践では、3年間の学習の集大成として模擬会社経営を取り入れた授業を展開します。資格取得では、特に全商簿記検定1級の全員合格を目指します。また、英語検定にも力を入れ国際化に対応した力を身に付けることを目標にして

います。



情報コース

情報処理科目を中心に、企業経営における情報活用能力や情報分析能力を身に付けます。総合実践では模擬会社経営を行い、情報処理検定やワープロ検定を中心に取り組んでいきます。また、英語検定も経営コース同様に力を入れていきます。

3 卒業後の進路

(1) 全体

23年度実績で進学者69名、就職者104名でした。進学者の割合は生徒全体の41%となっています。職業系学科では、近年就職希望者がやや多くなってきていますが、昨年度は卒業生117名中37名が進学しています。

(2) 進学

23年度実績で大学16名、短大13名、専門学校40名でした。進学先は、山口大学、福井県立大学、都留文科大学、早稲田大学、京都女子短大、岐阜市立女子短大、公立若狭高等看護学院など大学から専門学校まで幅広い進路となっています。

(3) 就職

就職状況は長引く不況により全国的に高校生の就職難が大きな問題となっていますが、本校では平成21年度、22年度、23年度とも就職率は100%を誇っています。

4 まとめ

新若狭東高校は、一人ひとり夢を実現する学校、地域と共に歩む学校、国際的な視野を養う学校を目標にしています。本校PTAの活動も、これまでの活動を維持するだけでなく、今後はより充実させ新若狭東高校の目標に向かって保護者・学校・生徒・地域と協力して生徒の健全なる成長に尽力していきたいと思っています。

【質疑応答と意見交換】 発表校 福井県立若狭東高等学校PTA

福井県高等学校PTA連合会事務局 太田 氏

質問 若狭東高校生は、非常に明るい、挨拶がよいという印象がある。PTAとしても、挨拶運動に取り組んでいるのか。現在、農業・工業・普通科という特色がある学校だが、PTA活動にはどのようなものがあるか。

若狭東高校 森川 氏

回答 生徒が明るいと言われるが、特別PTA活動では取り組んでいない。家庭や学校での生徒指導で行っている。

農業・工業では外部の方から講師に来ていただく事業がある。PTAの方に講師とし

て入っていただいている。特別に活動しているわけではないが、90年以上迎えているので、いろいろな方がかかわってくれている。

若狭高校PTA

質問 文化祭のことだが、「ふれあい喫茶」ではどのような手続きをしているか。一般開放はしていないのか。なぜ。

若狭東高校 森川 氏

回答 ふれあい喫茶では、担当者が手続きをとるようにしている。一般に全部開放してしまうと、今まで問題があった。今後、保護者には開放していく方向で考えていきたい。

美方高校PTA

質問 カレーを出しており、文化委員のみ検便をしている。30名ぐらいの保護者が来校し、500食分を用意している。若狭東高校では、参加してくれる保護者は何名ぐらいか。また、何食分用意しているのか。

若狭東高校 森川 氏

回答 保護者は研修委員会の方を中心に呼び掛けている。約15名野方が参加して下さる。軽食のホットサンドやたこ焼き等を作っている。販売金額も生徒の負担を少なくしている。11時から1時まで、売っている。最終的には余るけど、買いに来てくれた生徒には商品を出せるようにしている。

若狭東高校PTA 辻本 氏

回答 研修委員長をしている。来週12日、今年度の計画を立てる。研修委員以外の保護者にも手伝ってもらいたいと考えている。

敦賀気比高校PTA

質問 学校紹介ビデオの中の卒業式で、卒業生がコサージュをつけていたが、どのようにしているのか。

若狭東高校 中山 氏

回答 家庭クラブで製作している。前々日に、生花を購入し、カット、ワイヤー巻きなどを行う。前日に、各クラスの家庭クラブ員を中心に、組み合わせを行い、当日に配布する。

若狭高校PTA

質問 再編で新若狭東高校が来年スタートするが、来年新たな記念行事や取り組みは計画されているのか。

若狭東高校 森川 氏

回答 今のところ特には考えていない。3年後、新若狭東高校として生徒がそろうので、3年の間に考えていく。若狭高校では何か考えているのか。

若狭高校PTA

回答 まだ、何も考えていない。まず、再編をうまくいくようにする。